

卦象占断法 上卷

特257

353

111

56



始



特 257  
111

文學士 神山五黃先生著

卦象占断法

上卷



東京 神山易學會



## 緒言

予は易の占断法は、卦辞爻辞の意義に基いて占断を下すことが正則であると信ずるものである。故に既刊の實占適用易學講義録に於いても、此の信念の下に、易の占断活用法を説述したのであるが、古來象を觀ずして易なしと云ふ言がある通り、象は易の根元を成すものである。従つて古人の占断實例を見るも、その多くは象に基いて占断を下して居り、現在の實占家も、殆んどその占断を象によつて行つて居ると云つても、過言ではないと思ふのである。此の点より觀て、卦辞爻辞

の意義を本とし、これに象を取つて併せ考へて、最後の占断を下すことは占断法として最も必要なことであり、又占断の的中を期する上に於いても大切なことであるかと考へるのである。依つて茲に易學講義録を補足する意企の下に、新に卦象占断法を執筆して、これを會員諸士に頒たんと志したのである。若し夫れ、未だ易學講義録の會員に非ざる方で、本書を讀まるゝやうな機會があったならば、是非共講義録を併讀せられて、著者の意の存する所を諒解せられんことを切望するものである。

卦象占断法 上巻 目次

株の高下の占	一	某氏の運氣の占	一九
婚姻吉凶の占	三	妊娠の男女の占	二〇
晴雨の占	五	婚姻成否の占	二一
縁組吉凶の占	六	ある店の運氣の占	二三
養子縁組の占	八	運氣吉凶の占	二四
店員採用可否の占	九	學業前途の占	二六
訴訟の勝敗の占	一一	着船時日の占	二七
走人の占	一二	病氣の占	二九
走人の占	一三	失物の占	三〇
走人の占	一五	相場前途の占	三一
家出人の占	一六	某氏の運氣の占	三二
待人來否の占	一八	業務不振の原因の占	三四

新會社の内容の占	三五	妊娠の望みありや否やの占	五五
運勢の占	三七	事業の前途の占	五六
天候の占	三九	願望成否の占	五八
出奔人の占	四〇	婿の人物の占	五九
不和の仲の占	四一	事業經營の吉凶の占	六〇
借金成否の占	四三	身の上の占	六二
表運に傾ける商家の方針の占	四四	身の上の占	六三
賣家を買取ることの吉凶の占	四五	縁談吉凶の占	六五
病氣の占	四六	病症の占	六六
登山吉凶の占	四八	相場売買方針の占	六八
身の上の占	四九	願望成否の占	七〇
疾病の占	五一	訴訟勝敗の占	七一
妊娠の占	五二	轉居吉凶の占	七三
方位吉凶の占	五四	身の上の占	七四

縁談の占	七五	願望の占	九六
縁談の占	七七	金談の占	九七
運勢の占	七八	病氣の占	九八
開業の占	八〇	健康の占	一〇〇
就職の占	八一	人を援助するの占	一〇一
転業の占	八三	運勢の占	一〇三
養子の占	八四	賣買の占	一〇四
運勢の占	八六	相場の占	一〇五
試験の占	八七	縁談の占	一〇七
天候の占	八九	走人の占	一〇八
旅行の占	九〇	鑛山の占	一〇九
旅行の占	九一	身の上の占	一一一
性格の占	九三	出資の占	一一三
願望の占	九四	志望の占	一一四

鑿井の占	一二五	性格の占	一三六
運氣の占	一二七	代議士立候補の吉凶の占	一三八
運勢の占	一二八	試首有無の占	一四〇
新事業の占	一二〇	不和の因の占	一四二
教育法の占	一二一	妊娠の占	一四三
身の上の占	一二三	縁運の占	一四五
事業の占	一二四	養子縁組の占	一四六
縁運の占	一二六	紛訟事の占	一四八
身の上の占	一二七		
目的成否の占	一二九		
免罪晴否の占	一三〇		
相談事成否の占	一三二		
身の上の占	一三三		
縁運の占	一三五		
		目次終	

株の高下の占



地澤臨

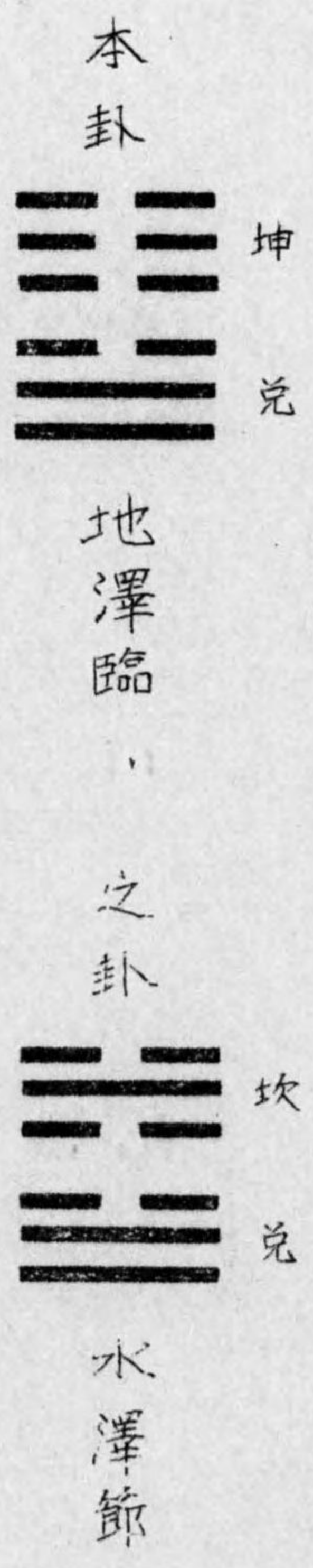


風地觀

知人某氏來りて新東株に思惑を試みんとすれども、當今その相場甚しく波瀾高下を極め、自分一箇の觀測のみにては甚だ心もとなしとて余に活断を求めたり。依つて之を筮して臨の觀に之くを得たり。臨は澤水地下に在るの象にして、地は低きもの、澤は更にその地よりも低きものなれば、目下相場は底値に近かるべし。而して臨の二陽は各爻の最下に位すれども、漸次勢ひを得て上升すべき性質を

有するか故に、その底値を限りとして相場は上向くものと見るを至當とす。況んや変卦觀となりて、陽爻忽ち上に位するは、短期間に意想外の高値を出現することを示す。乃ち機を失することなく、直ちに買出動すべきことを勧む。後果して数日にして二十圓幅の高値を出現したるを以て、すかさず賣って利喰をなしたるに、計らずも天井を賣りて巨利を博したり。

婚姻吉凶の占




某氏來りて、その子息の婚姻の吉凶を問ふ。既に仲介する人ありて、六分通り先方との話も纏り、良好なる縁談らしけれど、果して適當なりや否や、特に温順貞淑の点を知りたしと云ふ。依って之を筮して臨の節に之くを得たり。その占に曰く、臨は兌の少女坤母の許に従ひ事へて親和し、変卦節に於いては、坎の中男上に位し、兌の少女下に居りて、男女その位を正しく守り、坎水兌澤の中にある

てその限量に應じて過不足なきか如き象なり。又臨は求むる意、相違ふ意、人に愛せらるゝの意あり、節は、慎しみを守りて過度に走らざる意、辛抱強き意あれば、娶るべき女の性質の温順貞淑なること明らかなり。且つ臨の上卦坤母變じて坎の中男となり、節となりたるは、此の縁談の順調にして大吉なるを示すものなり。後娶りて果して吉なり。

晴雨の占

本卦


離 坤



火地晉

之卦

巽 坤



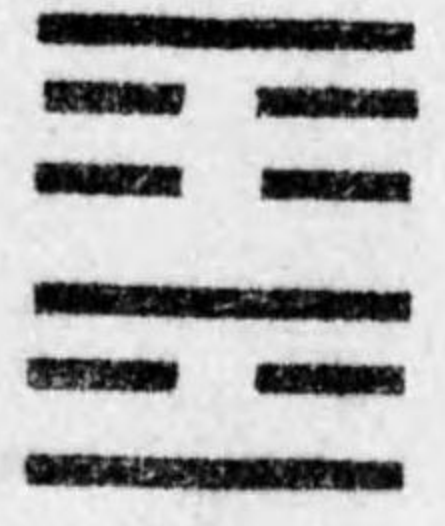
風地觀

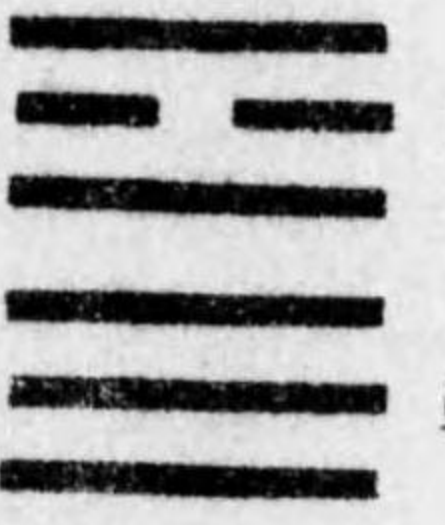
一日某氏来りて、今週の日曜日を期して、友人教名と近郷の勝地に日帰りの小旅行を試みんとす、その天候如何と。余之を筮して晉の觀に之くを得たり。その占に曰く、晉は離の曰坤の地上に并りて四方を照らすの象、又變卦觀は巽風坤の地上を吹くの象なり。故に同日は、午前中は晴天なれども、午後よりは風出で、曇り勝ちとなるべし。四陰下に長ずるは、天候次第に悪化するの徴なれども、未



だニ陽残りて支ふるを以て、雨降るに至らざるべしと云ふ。果して占の如くなりき。

縁組吉凶の占

本卦  山火賁

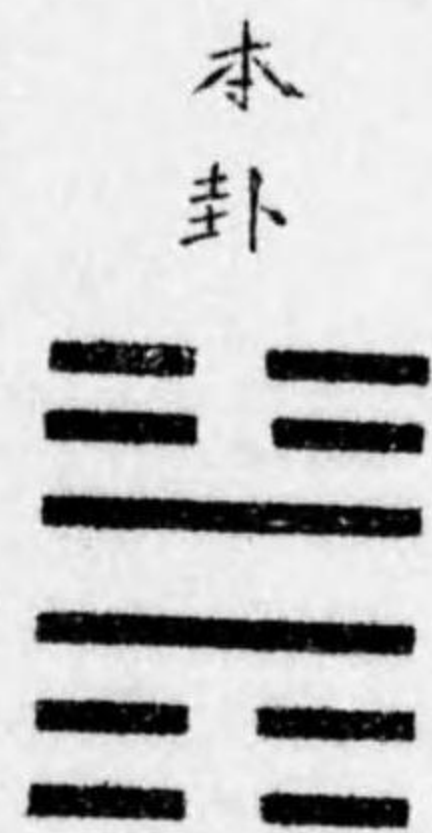
之卦  火天大有

男女二人の子を持てる人來り、姉は長女なれば婿を取りて嗣とすべきや或は他へ嫁せしむる方宜しきやを問ふ。之を筮して賁の大有に之くを得たり。離は曰なり中女なり、艮は山なり家なり、又、乾は天なり外なり、賁は文飾にして大有は家を有つなり。思ふに賁は

離日艮山の下に在り、中女家に在るの象にして、昇り輝くべき離日  
が艮山に遮られて發し得ざるものなり。即ち、中女家に在りて外  
見はよけれども、その用をなさざるなり。然るに變卦大有となりて  
中女が出でて家を持てば、離日乾天に輝くが如く、その本來の所  
を得て吉なるなり。これに由つて觀れば其長女は他に嫁せしむる方  
吉なりと答ふ、後果して富家の妻となり、円満なる家庭をつくれり。

養子縁組の占

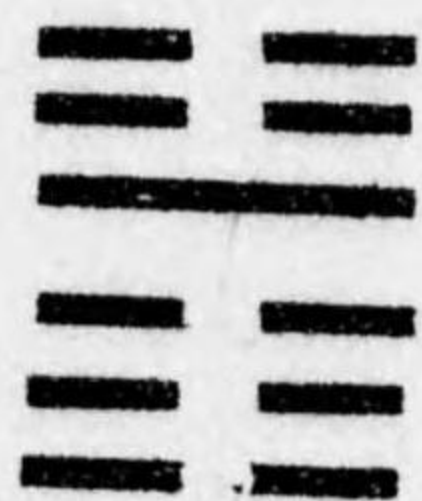
震 艮



本卦 雷山小過

之卦

震 坤



雷地豫

或人來りて、富家より養子に望まれたれども、自分としては喜んで行くほどの氣もせず、然し將來の爲め如何すべきやを問ふ。これを筮して小過の豫に之くを得、断じて曰く、小過は震雷艮山の上に奮い出づるの象にして、山は止まって動かず、雷は動いて止まらず、彼は爲せども我は止まるものなり。即ち、先方にては某氏を養子に望み居るも、當方にては意進まず心動かざるは正に小過の象なり。

然れども小過變じて豫となれば、震雷坤地の上に奮い出づるの象にして、人に取りては平素の志を遂げて悦び楽しむの義なるを以て、たとへ初めは多少氣の進まざることあるも婚となりて學を盡さば志を得ること疑ひなかるべしと云ふ。後果して内満に暮しつゝありとて謝辞を述べ來れり。

店員採用可否の占

艮 坎



本卦 山水蒙

之卦

震 坤



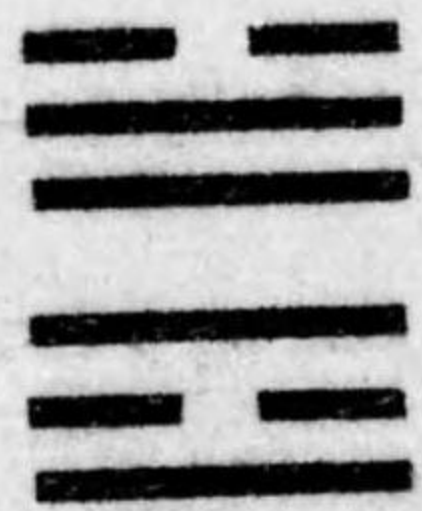
雷地豫

某氏來りて、店舗擴張に當り、店員一名を採用せんとす、候補者

二名のうち何れを採用すべきかを問ふ。之を筮して蒙の豫に之くを得たり。占に曰く、甲の店員は蒙の二爻に當り、乙の店員は上爻に當る。上爻は蒙の暗昧の極に位し、動き変らんとして落着きを缺くか故に乙店員は好ましからず。甲店員も亦蒙の暗昧に居ると雖も、未だその始めにして且つ中を得たるものなるか故に、よく實務を習得せしむれば、蒙を啓いて良店員たるべき素質を有する人物なり。而して変卦豫となれば、良は震となりて益々浮雲躁動の性を加ふるか故に、甲を採用するを可とす。後果して占の如く、甲は其店の重要なる店員となれり。

### 訴訟の勝敗の占

兑 離



### 澤火革の不變

某氏來り、三年越しの訴訟事件未だ勝敗決せず。果して如何と問ふ。之を筮して革の不變を得たり。占に曰く、革は我が離火を以て彼の兌金を尅するの象なれば、現在までのところは、彼も厭せずし對等の勢を示し居れども、やがてその形勢は革まりて彼敗れんこと疑ひなしと、果して後数ヶ月にして占の如く解決したり。

走人の占

乾 坎



本卦 天水訟

之卦

離 坎



火水未濟

某氏来りて、子息昨日家を出でし儘帰らず、心痛しつゝあり、身の上を占はれたしと。筮して訟の未済に之くを得たり。断じて曰く、訟は乾天上に在って上り、坎水下に在って下り、天水違ひ行くの象なり。即ち和せずして口舌争論せるための家出せるならん。而して変卦未済となるより見て、子息の意未だ轉向するに至らず、今急に警察等の手を借りて捜すときは、却つて子息の反感心を増して不

測の災を惹起すに至るやも知れず。故に暫く時日を経過すれば、未済は成るの始めにして、待つ所ありて次第に成ること恰かも花落ちて實を結ぶが如し。心配するに及ばずと云ふ。後果して子息の方より居所を知らせて、程なく家に帰れる由なり。

走人の占

乾 坎



本卦 天水訟

之卦

乾 艮

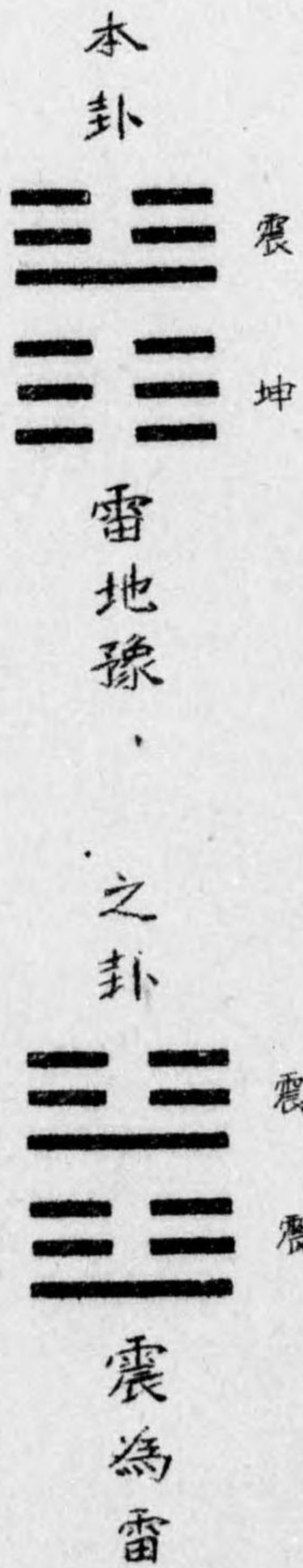


天山遯

某氏来りて、其村の寺僧出奔したる儘帰らずとて占を求む。之を筮して訟の遯に之くを得たり。断じて曰く、訟は相争うて背き離る

るの象なれば、此の僧は他と何か争ふことありて己れの立場を失ひ遂に出奔するに至れるものならん。而して変卦遯となれば、乾の天氣は上りて息まず、艮の山岳は止まりて動かず、即ち天氣上行して山嶽を遯れ去るの象なれば、此僧の奔意は頗る堅く、到底帰ることなかるべしと云ふ。其後月餘に及ぶも帰らず、爲めに新住職を迎へたりといふ。

### 走人の占



某氏来りて、其小店員朝出でて今に歸らず、心配なれば占を乞ふと。筮して豫の震に之くを得たり。断じて曰く、豫は震雷坤地の上に奮ひ出づるの象にして、人にとりては平素の志と遂げて氣伸ぶ悦び楽しむの義なり。又、震は賑やかなの意あり。楽しく賑やかなるは芝居か活動ならん。此の小店員は、常々それを見たしと思ひ居たるに、たまく使ひに出でてその近くに行きたるため、又は自らその

方に向きて、我知らず誘ひ込まれたるものなるべし。坤を夜とし、震を東とすれば、夜に入って東の方より帰らんと云ふ。果して占の如くなり。

### 家出人の占

坎 震



水雷屯

之卦

坎 離



水火既濟

或入来りて、田舎の知人より依頼されて預かれる青年、突然家出したり。居所方角何れなりや占を乞ふと。之を筮して屯の既濟に之くを得たり。断じて曰く、屯は長男北へ行くの象にして、震動を以

て坎險の中に陥り、動いてその險を出でんとして未だ出づる能はざるの象なり。蓋し愚友のために無理に誘はれて花柳の巷に引止めらる居るなるべし。而して夬卦既濟は、芙蓉霜を載くの象、即ち芙蓉は秋花を開き甚だ美麗なれども、霜に傷れ易きものにして、此の卦の始め盛にして後衰ふること芙蓉の霜に遇ふが如し。察するに本人は既に歡樂極まって哀情を生じたるなれば、翌日は必ず帰るべし。また方角は、坎を北とし水とし離を森林とするより、北方の河に近く樹木多き場所なるべしと云ふ。其人安心して帰れるが、聞くところによれば翌日その青年無事に帰宅したりといふ。

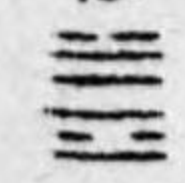
待人來否の占

離 巽



火風鼎の不變

某氏来りて、待人ありて今日来る約なれども未だ見えす、今夜にてもあらんか、重要な相談事の約束なれば占を乞ふと、筮して鼎の不變を得たり。断じて曰く、鼎は烹飪を爲すの器にして生腥の物を熟変して味を調ふるものにして革変の義を有す。故に先方にては何か都合が生じたる爲め、急に豫定が変更されたるならん。今夜は来らず、明日来るべし。如何と云れば、鼎の卦を先方より見れば



革となる。革は日西に入るの象、即ち夜の象にして、その夜明くれば、日東方に出づるの象なり。故に明日来るべしといふに累して其如くなりき。

某氏の運氣の占

巽 坤



風地觀

之卦

巽 震



風雷益

相識の間なる医師某来りて運氣の占断を求む。筮して觀の益に之を得たり。断じて曰く、觀の卦たる二陽外に充ち、四陰内に空しきは、外見はよけれども内は空乏なる意なり。故に當年は療用暇に

して衰運の意あり。親を八月とすれば、少くとゆ八月までは間暇ならん。然れども、変じて益となれば、巽震の二本上下に蕃茂するの象なるを以て、療用繁昌するに至らん。果して占の如く九月より繁昌せり。

### 妊娠の男女の占

坎 艮



水山蹇の不変

或人未りて臆て生るべき子の男女別を知りたしといふ。依つて之を望して蹇の不変を得たり。断じて曰く、蹇は坎險前に在り艮山後

に譬えて、進退共に險難の象なり。故に稍難産の兆あり。而して蹇は艮の腹中に離の中女を包むの象あれば、生児は女子なるべしと云ふ。此の人余の言を用ひて、早くより病院に入れ、周到なる準備を盡したる爲め、安全に女児を出産することを得たりとて書状を寄せられたり。

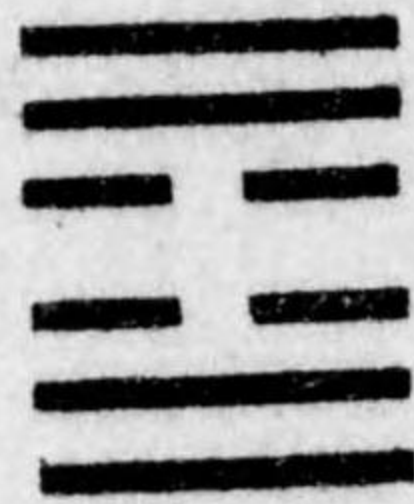
### 婚約成否の占

離 乾



火天大有 之卦

巽 兑



風澤中孚

或人婚姻の仲介を爲し、相約して後、女の方へ婚姻の期日を定め



んと手紙を出したるに、先方より何等の音信なし。若し違約等の事  
 あらば、男の方へ對して恥となる故、末りてその吉凶如何を問ふ。  
 之を筮して大有の中字に之くを得たり。断に曰く、大有は日たもを有つ  
 なり、又中字は兩兑相向ひ合つて悦び且つ信ある象なり。故に此事  
 は心配するに及ばず、聽て彼より音信あるべし、安んじて待つべし  
 と云ふ。果して十日後に至り、彼より婚姻の吉日を選定すべく、相  
 談致し度き旨返信ありて無事成立したり。

ある店の運氣の占

巽 艮



風山漸

之卦

震 離



雷火豊

飲食店を営める某氏末り、近頃客足寂れて商賣一向引立たず、果  
 して前途の望みありや否やを問ふ。之を筮して漸の豊に之くを得た  
 り。断じて曰く、漸は速の反対にして漸進の意、即ち巽水艮山の上  
 に生じ、次第に成長繁茂するの象なり。故に目下のところは、急速  
 に成功せんとして無理を行はず、備念なく漸を追うて勉強せば成功  
 を見るに至るべし。殊に變卦豊は震雷離電一時に起つて、或は奮ひ或

は閃めき、その勢ひ甚だ盛大なるの象なれば、今日の不振は一時的の現象にして憂ふるに足らず、やがては應接に違なきほどの繁盛を來すべし。

運氣 吉凶の占

艮 乾



山天大畜

之卦

巽 震



風雷益

某氏の運氣を察して大畜の益に之くを得たり。断じて曰く、大畜は大いにたくはへ止むるなり、益は栄ゆるなり、乾は健なり、乾が震となるは、健にして動くの義なり、艮は篤実なり、巽は遷徙なり、

艮變じて巽となるは、篤実にして遷ふの象なり。又大畜は止むなり、益は恵むなり、大畜變じて益となるは、驕を止めて人を恵むの意あり、故に内剛健にして能く勤め、外篤實にして能く遷ふ。是を以て驕を止めて人を恵むときは、必ず栄えん。且つ乾は金なり玉なり、艮は止なり、大畜は聚なり、養なり、震は動なり、巽は遷なり、益は増なり、大畜の益に之くはこれ財を聚め宝を積み、人を養ひ業を増すの卦なれば、吉これより大なるは無かるべしと云ふ。後果して占の如し。

### 學業前途の占

艮 坎



山水蒙

之卦

艮 離



山火賁

某氏まりて、目下小學校に通學する子息の成績思はしからず、果して將來上級の學校へ進むに適するや否やを問ふ。之を筮して蒙の賁に之くを得、断じて曰く、蒙は物穢小にして是非黑白を辨せざるの意あり。之を刷へば、花蒼なる時は、内に美ありと雖も赤白量り難し。然れども後時至りて聞くときは其美を現はすなり。人生れて穢なるとき、内に智あれども發せず、然れども日々に智を發さ且つ

師を求め人に教訓せられて後其智益々顕はるゝなり。而して爰卦賁は離火艮山の下に光彩を放つの象なるより見て、子息は未だ稚きたの眞の智力を出すに至らざれども、年を追うて上の學校に進むに従ひ、次第に光茫を現はすに至るべし。憂ふるに及ばすと云ふ。後果して優秀なる成績を以て大學を卒業せり。

### 著船時日の占

坤 艮




地山謙の不變


或人まりて、某地にその特産物を注文したるに、著船の時日既に

過れども来らず、果して何時頃到着すべきやを問ふ。筮して謙の不  
 変を得、断じて曰く、坤を大川とし、艮を止むるとなし、一陽を船  
 なす。又内卦を當月とし、外卦を来月とす。此船海より大川に入  
 りて後何かの都合により暫時碇泊し居れども、一陽内外の極に居る  
 を以て、當月末には到着するならんと云ふ。果して、破損せる箇所  
 を修繕せるため豫定より後れて其月の末到着したり。

病氣の占

本卦  兌 坤

澤地萃

之卦  兌 艮

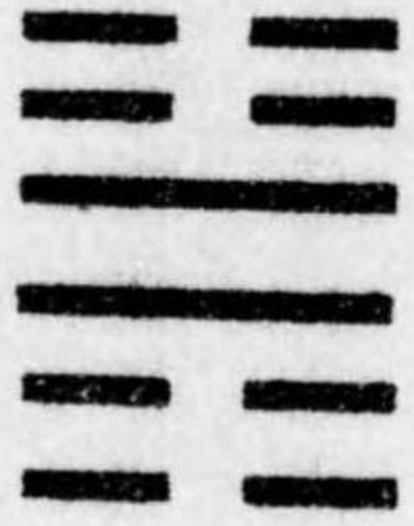
澤山咸

或へ来り、病氣に就きて占断を求む。筮して萃の咸に之くを得、  
 断じて曰く、萃は兌を口とし、坤を腹とし、又兌の澤水坤の地上に  
 在りて下る意なるは、恐らく食物による腹中の病氣ならん。而して  
 変卦咸は感應する意あれば、此病氣は流行病なるべし。然れども咸  
 は思ひ通ずるの卦にして、虚心医師の教を守らば、危きを轉じて兌  
 の悦びを見ることを得べしといふ。医師の診断を受けしところ腸子

フスにて一時重態となりしも後全快の悦びを見るを得たり。

### 失物の占

震 艮



#### 雷山小過の不变

某氏来りて、失物あり果して出づべきや否やを問ふ。筮して小過の不变を得たり。断じて曰く、艮は家なり門なり、震は壯夫なり走るなり、小過は盜賊物を取りて門外に走り去るの象なり。而して正震倒震相背き離れてますく遠ざかるは、此物尋ねても出で来らざるべしと。

### 相場前途の占

震 乾



#### 雷天大壯

之卦



#### 澤天夬

兑 乾

ある人来り、殊に思惑を試み、目下買玉を多数抱へ居れども将来此相場如何変化すべきか、その方針につき占断を求むと。筮して大壯の夬に之くを得たり。断じて曰く、大壯は震雷乾天の上に奮ひ鳴り、又乾を虎とし震を角とし、四陽二陰を消せんとして進む勢ひは恰かも猛虎の角を生じたるが如し。蓋し相場は目下の値頃を以て略々天井と見做すべく、宜しく速かに賣理めて利喰ひを行ふべし。如

何となれば、大壯変じて夬となるは、兌の澤氣乾天の上に昇り、や  
かて雨となりて決潰し下る象なれば、此機を外しては利喰の時無か  
るべきを以てなり。客此占を守りて直ちに利喰ひをなしたるを以て  
危きところにて下落の憂き目を免る、ことを得たり。

### 某氏の運氣の占

坎 震



水雷屯

之卦



兌 震

澤雷隨

或人の運氣を占ひて屯の隨に之くを得たり。断じて曰く、屯は、  
物始めて地中より萌出で、人始めて胎中より出で、胎卵の生包を破

り殼を脱して未明にして安からざる象なり。且つ震動を以て坎險の  
中に陥り、動いてその險を出でんとして未だ出づる能はざるの象な  
り。これを以て考ふるに、貴下は今創業の際にて、多事多難の状態  
に在るならん。果して然らば、此時に當って如何に處すべきかとい  
ふに、変卦隨は震雷兌澤の中に奮ひ、雷が奮ひ動けば水も亦従つて  
動き、我動けば彼も亦悦んで應ずるの象なれば、險難目前に在るも  
、おのか出所進退を正しくし、正を以て進めば、必ず應報ありて、  
屯の坎險は隨の兑悦と変り、光明を仰ぐことを得べしと。客いたく  
占断の妙味を感じ、大いに力を得たりとて帰れるが、此人よく險難  
に堪へて功を遂げ發展を見るに至れり。

### 業務不振の原因の占

艮 巽



山風蠱

之卦

艮 離



山火賁

工場を經營する某氏來りて近頃努力すれども業績挙らず、如何なる原因に由るかを問ふ。之を筮して蠱の賁に之くを得たり、断じて曰く、蠱は巽風艮山の下に吹き入り、内より外を賁り下より上を賁るの意あり。又、艮を門とし家とし、巽を賊とし、家内に賊あれば其家破壊するに至る意あり。之を以て見れば、賁下の工場は内部に於ける人物の配置宜しきを得ず、爲に悪事を行ふものありて、恰か

も皿中の物腐敗して蛆虫を生ずるが如く、工場の業務を毒するが故に業績挙らざるなり。これ賁下の監督の不行届きの爲なれば、今後は艮山の下に離火を燃やして光彩鮮明なるが如く、實際に賁下が工場中の人と伍して監督勉勵すれば必ず成績挙るべしと云ふ。其後数ヶ月ならずして其人より悉く占断の如くなりとの書信に接したり。

### 新會社の内容の占

艮 坤



山地剝

之卦

巽 坎



風水渙

某氏來りて、さる新設會社の株主として加入することを勧められ

たれど、果して信用し得べき會社なりや否や、疑はしきを以て占を乞ふと。之を筮して剝の渙に之くを得たり。断じて曰く。剝は一陽外に實つて五陰内に空しく、外見は善けれども、内は空虚の意なり。又、變卦渙は、巽風坎水を吹くの象なるが、風が水上を吹けば、水は風の爲に渙散せらる。蓋し此新會社は最初より申込金などを購着せんがために設けられたる幽靈會社にして、毫も實質的のものにはあらず。やがて消滅解散すべきこと明かなりと云ふ。果して其後一ヶ月ならずして詐偽的のものなること新聞紙上に報ぜられたり。

### 運勢の占



本卦

山天大畜

之卦



雷天大壯

其氏の運氣を占して大畜の大壯に之くを得たり。断じて曰く、大畜は艮止を以て乾の銳進せんとするを制止するの象なり。又、艮を巖とし乾を金とし、金巖中に在るの象なり。されば貴下の運勢は今畜養の時期なれば、外見上は非運なるが如く見ゆることもあらんが、自重して妄りに動かず、時の到るを待つこと肝要なり。然るときは、艮止の障壁は震動して大壯となり、震雷乾天の上に會ひ鳴る



か如く、大いに榮達繁昌するの身とならん。然れども大壯は、四陽の強きを以て二陰の弱きを追ふものなれば、とかく進み過ぎて失敗するの意あれば、調子に乗りて人を侮り他を凌ぐことあるべからず。要するに貴下の運勢は將來大いに飛躍するの象あるを以て、目今の沈滞に意氣沮喪せず、また好調に際しては手綱を引き締むる心掛けを以て処すれば、成功疑ひなしと云ふ。

天候の占

本卦



兌  
坎

澤水困

之卦



震  
坎

雷水解

郷里の某氏来り、今夏雨少く、農家祈れどもその驗なく困却し居れり、何日頃降雨あるや占を乞ふと。之を筮して困の解に之くを得たり。断じて曰く、困は兌澤の水下に洩れて空虚となるの象にして旱天雨降らず百姓困窮するの義なり。然れども困の五爻変じて解となれば、震雷上に震ひて坎雨大いに下るの象。恐らく今より五日を経ば降雨あらんといふ。果して後五日にして殆ど全国的の降雨を見

たり。

### 出奔人を占ふ

巽 坤



### 風地觀の不变

某氏来りて、その子息出奔して行方不明となり深憂に堪へず、いづれへ行かしや占を乞ふと。筮して觀の不变を得たり。断じて曰く、觀は巽風坤地の上を吹き行くの象にして、人にとりては出奔の義なり。觀を大艮と見れば方舟に於いて東北方、又觀を郁會の象となす。之に依つて觀るに、子息は東京を出づることなく、その東北方

に居るならん、而して風は物に触るれば必ず旋る。故に警察の力を借り又は人を派して尋ぬるまでもなく、数日ならずして子息自身風の旋ぐるが如く歸り來るべしと云ふ。果して一週間許りを経て帰來せりと。

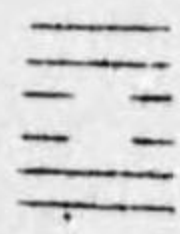
### 不和の仲の占

巽 巽



### 巽為風の不变

某氏来りて、些細なる感情の行違ひより永年の交友と仲違ひと存れり、然れども近頃彼より再び元の交情を回復したき希望あるやに


人を介して聞けり、如何なる処置に出づべきや占を乞ふと。之を筮して巽の不变を得たり。断じて曰く、彼より倒兌（巽の卦を先方より見れば兌となる）を以て貴下に向へども、貴下は兌口を背けて背せざるの象なりと云へば、某人、然り我れ必しく不平のことあるに由って彼に應ぜずと云ふ。貴下彼が言を寛容して其中を執り、我より口を開けば内顛して中孚  となり、信義無事にして交情旧の如く美はしからん。得卦の巽の儘に放擲しおくときは、風の樹木を吹くが如く忙がしく、互に偏見を持して毫も宜しきことなかるべしと云ふ。其人諾して帰りしが、翌月に至り書信を以て、友情旧に復し幸福なる日を送り居る由傳へ来れり。

借金 成 否 の 占

兌 震



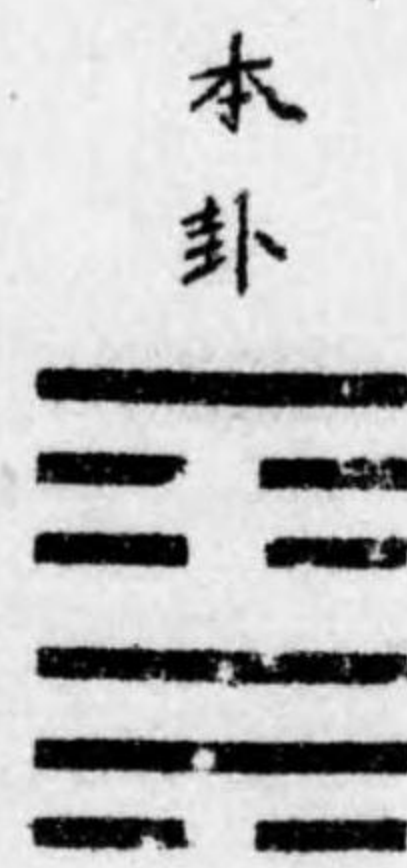
澤雷隨の不变

某氏来り、金子を借るの成否を問ふ。筮して隨の不变を得たり。断じて曰く、これは我より震を以て進めども、彼兌口を以て外に背けて承諾せざるの意あり。然れども貴下その金子の使途を明かにし且つ返金を違はざるの證人を立てて彼へ懇談せば、彼は兌口を以て我に向うて益  となり、金子を貸すことあるべし。今貴下独り進みて言へども彼信せざるの象なれば調ひ難しと云ふ。後證人を入

れて其事成就したりといふ。

### 衰運に傾ける商家の方針の占

艮 巽



山風蠱

之卦

巽 坎



風水渙

某商家の衰運を筮して蠱の渙に之くを得たり。断じて曰く、蠱の卦本未泰より来る。泰は無事の時にして、泰の上六の一陰が内卦の初に來り、初九の一陽が上六と交代して蠱となれば、これ即ち主人たる者が姦佞なる小人を寵愛するため賢者外に出づるの象、而して九三の一陽が六五の一陰と交代して内卦に坎を生じて渙となれば、

渙は巽風坎水を吹き散らすの象にして家財分散の義なり。故に先に  
出でし賢者を呼びかへし、店務の革新を圖るべし。然らば再び泰の  
卦となり、隆盛に赴かんといふ。果して占の如し。

### 賣家を買取ることの吉凶の占

巽 離



風火家人

之卦

巽 兑



風澤中孚

某氏來り、豫て手頃の賣家あらば買ひたしと思ひ居りしところ、  
最近場所建物共に申分なき格好のもの見当りたれば買はむと思ふ  
も、先づ吉凶を問ひたしと云ふ。之を筮して家人の中孚に之くを得た

リ。断じて曰く、家人は家を有つ卦、又中孚は彼我相向うて信ある象なれば求めて吉なるべし。且つ家人は内は離明にして外は巽順なり。内明かにして外順なれば上下親和してその家よく齊ふ。之を以て見るに、貴下その家に移りて中孚の心を失はざれば、今より一層幸福なる家庭とならんと云ふ。果して占の如し。

病氣の占

乾 艮

本卦



天山遯

之卦



天火同人

乾 離

某青年の病氣を占して遯の同人に之くを得たり。断じて曰く、遯

は二陰盛に進んで四陽を止めんとして逐ひ来る象。乾を肺とするより見て、此の病氣は肺病の初期ならん。而して艮の一陰陽に表じて離となれば同人となり、闇夜揚燈の象あり。即ち乾を闇夜とし離を燈とし、闇夜に燈を揚げて事物を照らすが如し。之に依って見るに、肺病なりとも憂ふるに足らず。陰に籠りて消極的たらんよりは、宜しく氣を陽に構へて萬事光明的に心掛くれば、離の日輪が乾天に在りて光明遍満する如く、健康を恢復するを得んと云ふ。この人占の如く努めて心情を陽氣に保ちしたため次第に健康を恢復し、以前よりも更に丈夫なる身体となれり。

### 登山吉凶の占

坤 艮



地山謙の不变

青年某来り、今夏日本アルプスへ登山旅行を試みんとす、その吉凶を問ふと。之を筮して謙の不变を得たり。断じて曰く、謙は艮山の上に坤の平安を戴くの象なれば、此の旅無事なるべし。たゞ、謙は艮山の高きを以て坤地の低きに下るの象なれば、萬事其心掛けを守り、おのれ力を過信して強いて危険なる場所に至り或は無理なる旅程を取ることは、互卦に坎險の象あれば、危険に類する

の憂ひあるべしと云ふ。青年曰く、先生の言は正に登山の要諦なり、固く守るべしとて去りしが、後無事に踏破し得たりとて旅先より信を寄せ来れり。

### 身の上の断

坎 坎



坎為水

之卦

坎 坤



水地比

或る婦人来りて身の上にかきて占断を求む。筮して坎の比に之くを得たり。断じて曰く、坎は一陽二陰の間に陥り、又二人水に溺るるの象あり。之を以て案ずるに、貴女の夫なる人他の婦人に迷ひ家

を外にするの行ひある為貴女の心中甚だ平らかならず、共に險難に  
 陥るの狀態なるべし。外卦を夫とし内卦を貴女とすれば、貴女先づ  
 嫉妬強剛の一陽を捨て去り、孚誠を以て夫に向ふべし。然らば坎水  
 坤土の上に在りて、水は能く土に和し土は能く水に親しみ、上は仁  
 慈にして下は順従し、和合安樂の境に達することを得んと。後果し  
 て夫なる人の遊蕩も止み、占の如く平安なる家庭を見るに至れり。

疾病の占



某氏來り、近頃とかく健康勝れず、頭痛などして不愉快なり、い  
 かなる病なりや占を乞ふと。之を筮して蹇の咸に之くを得たり。断  
 じて曰く、蹇は坤中に離を包み、且つ坎險を上にし艮の遲滯を下に  
 するは、腹中に熱氣ありて生理的作用を遲滯せしむるために血行に  
 異和を生じて頭痛を起すなり。然れば胃腸の養生を專一とし、熱氣  
 を除くことを心掛くべし。此惡熱が去れば約象離は乾となり、卦は咸と

なる。咸は兑沢上に在り艮山下に在り、山沢相感じ二氣相通するの象にして疾癒ゆるの義なりと云ふ。医師の診断を受けしに果して胃腸の傷害なりと云はれ其療養を専らにせしたため頭痛も去りて健康を恢復されたり。

### 妊 娠 の 占

坎 艮



本卦 水山蹇

之卦



水地比

坎 坤

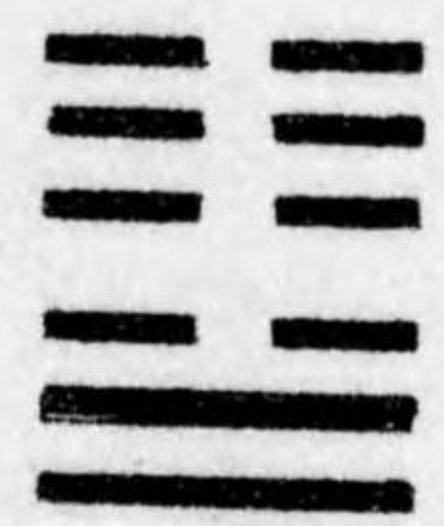
某氏来りて其細君の妊娠の實否並に男女の別を問ふ。之を筮して蹇の比に之くを得たり。断じて曰く、蹇は坤(一爻ニ爻上爻を以て

坤と見る)の腹中に離を包むの象なり。故にその妊娠したることは必然なり。而して蹇が變じて比となれば、比は坤の腹を以て艮の少男を包むの象なるが故に、男子を妊娠せるに相違なかるべしと云ふ。後果して男子出生したりと。蹇の卦に於いて離を中女と見て女児を孕むとするときは、變卦比は無用のものとなるが故に、蹇に於いては妊娠の如何のみを占し、比に於いて男女の別を占断するなり。



### 方位吉凶の占

坤 兌



### 地澤臨の不變

某氏来りて、今度官職を辞して一商店を開かんとせしに東西兩地に候補地あり、いづれが可なるか其取捨に惑へるを以て占を乞ふと。之を筮して臨の不變を得たり。断じて曰く、臨は二陽上に向つて長ずるの卦なれば、此商賣は貴下にとりて最も適當せるものにして、繁昌隆昌の兆あり。而して臨を大卦の震と見れば震は東方に當る。故に東方に開店するを吉とすべしと云ひしに、果して占の如く繁昌

しつゝあり。

### 妊娠の望みあるや否やの占

巽 離



### 風火家人の不變

一婦人来り、結婚後既に十年を経れども子なく、若し將來子なしとせば、今のうちに養子をせねばならず、依つて今後子あるや否やを筮せんことを乞ふ。之を筮して家人の不變を得たり。断じて曰く、家人は内離明にして外は巽順なり、内明かにして外順なれば上下親和してその家よく齊ふ。家の齊ふは、正しく父子相續の義あるの

みならず、乾（初爻、五爻及六爻を以て乾と見る）を以て坎の中男を包むは、將來必ず男子を儲くるに相違なし。されば今急に養子をなす必要なしと云ふ。後果して占断の如き結果を見たり。

### 事業の前途の占

震 巽



雷風恒

之卦



風雷益

巽 震

某氏来りて事業の前途に就きて占断を求む。之を筮して恒の益に之くを得たり。断じて曰く、恒は震雷上に動いて巽風之に従ひ、變化窮りなきの象、且つ此二物初めは相互にその勢を助けて並行すと

雖も暫時にして相背き去るの象あり。之に依って按ずるに貴下の事業に確然たる方針なく全体の統整を缺くが故に、とかく散漫になり勝ちにて成績の挙げざるも此処に基因するが如し。且つ上下に陰爻を配し、内部に乾の陽爻を配するは、内部のことにのみ片寄りたる力を注ぎ、外部関係を等閑に附するの義なり。故に之等の点に意を用ひ革新を断行せば、夬卦益となりて面目一新し、陽剛を以て内柔を保護し、事業は益々堅實となり利益を挙げ得るに至るべきこと明かなるべし。

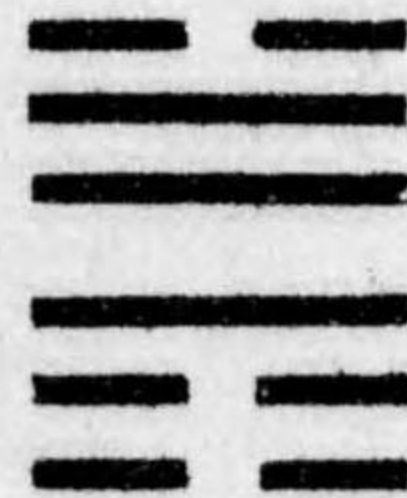
### 願望成否の占

坎 艮



水山蹇

之卦



澤山咸

兑 艮

或入願望成否につきて占断を求む。筮して蹇の咸に之くを得たり。断じて曰く、蹇は坎險前に在り艮山後に在りて進退兩難の象、故に願望故障ありて調ひ難く見ゆる義とす。然れども夬卦咸は兑沢上にあり艮山下に在りて山沢相感じ二氣通ずるの象、心誠なるときは願望速かに調ひ義なり。蓋し初め蹇の卦を見たるは貴下の熱誠の未だ足らざるが為なるべしと云ひしに、其人、まことに先生の言の如

く、初め當方餘り熱心に奔走せざる為めか、遅々として進せざるに  
より、先生に占断を乞ひしなりと云ふ。

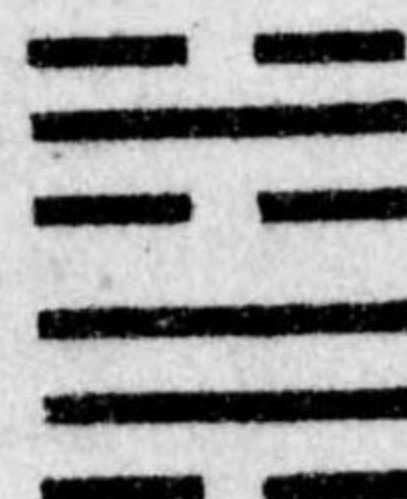
### 婿の人物の占

震 巽



雷風恒

之卦



水風井

坎 巽

某氏來りて、娘の婿として媒介されたる青年の人物に就きて占を乞ふと、之を筮して恒の井に之くを得たり。断に曰く、恒は坤の大陰を以て乾の大陽を包みたる卦象なり。之に依って按ずるに、其青年表面は暗陰黒にして佞懦なるが如きも、内心は剛明果断にして強健

なる徳を備へたる好青年なるべし。且つ恒は震を長男とし巽を長女とし、震雷上に動いて巽風之に従ふの義あり、其の青年を迎へば、夫婦仲もよく、変卦井は養ふの卦なれば、養父母に對しても孝養を盡すべく、誠に大吉なる人物と云ふべし。

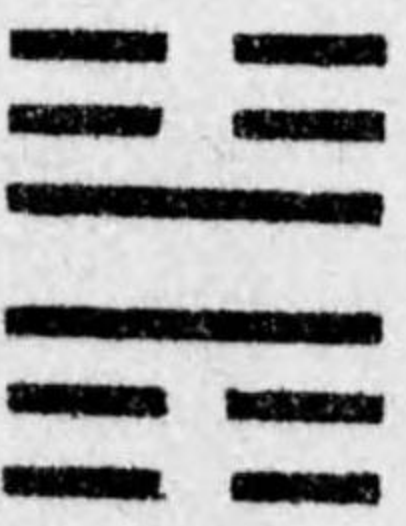
事業經營の吉凶の占

震 離



雷火豊

之卦



雷山小過

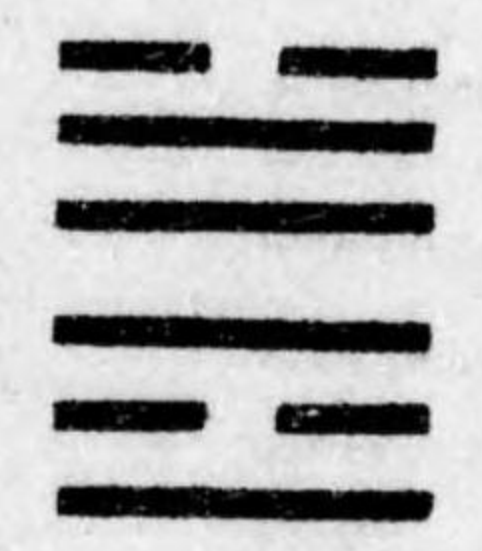
震 艮

某氏来りて、今回或る人と共同にて事業を經營せむとす、其可否吉凶の占を乞ふと。之を筮して豊の小過に之くを得たり。断じて曰

く、豊は震を彼とし尊者とし、離を我とし智者とす、之即ち貴下の智と彼の勇と合体し共同して大功を建つるの意且つ豊は震雷離電一時に起つて其の勢甚だ盛大なるの貌なれば、事業の前途は盛大隆昌に赴くこと疑ひなし。然れども之卦小過は正震倒震互に背を向けて、彼我反き離るゝの象なれば、貴下と共同者と志両端に分れて親和せず、爲に事業不振の端となることあるべければ、此の点矣々も注意せらるべしと云ふ。後数年ならずして、両者意見の齟齬より遂に分るゝに至れり。

### 身の上の占

兑 離



#### 澤火革の不变

或人未りて身の上に就きて占断を求む。筮して革の不变を得たり。断じて曰く、革は離を夏とし兑を秋とし夏より秋に革まるの象なり。而して兌を少女とし離を中女となす。之に依って觀るに、貴下は今何か婦人関係のことにつきて改革をなすべき時に在りながら些か迷ひ居るが如し。然れども革は沢水上に在り離火下に在り、およそ火熾なる時には必ず水を乾かし廻らす、又水多きときは必ず火を

滅す。即ち勢ひの強く大なるものか、勢ひの弱く小なるものに克つの義なり。故に此際宜しく乎誠を以て改革の事に當らば、離に兌金を剋するの卦象より見て必ず貴下の勝となり、積弊を滅盡して吉運を得るに至るべしといふ。客大いに感ずる所あるが如く、これにて決心確立せりして謝して帰れり。

### 身の上の占

離 巽



#### 火風鼎之卦



#### 風山漸

某氏來りて現在官廳の勤めを守るを吉とするか、或は獨立して

一業を始むるを吉とすべしか占を乞ふと。之を筮して鼎の漸に之くを得たり。断じて曰く、鼎は離を明主とし巽を附隨となす離を彼となし巽を我となし、且つ変卦漸となるより見れば貴下の上役は智慮ある聰明の人なれば、貴下が上役に誠心誠意を以て従ひ盡さば、信任を得て將來榮展昇進すべき運氣を現はせるものなり。変卦漸となるより、急に昇進榮達は見ざるも、必ず將來好位置に就くべきは疑ひなし。されば官を辞して獨立するは將來の爲に得策にあらずと。此人この占断を守りて現職に力を盡したる爲、俊大いに用ひられて榮職を得るに至れり。

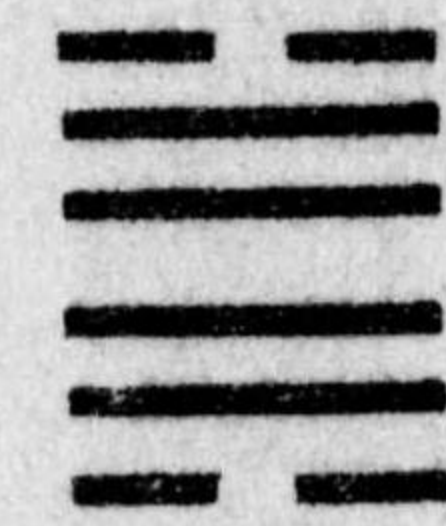
### 縁談吉凶の占

兌 坎



本卦 澤水困

之卦



澤風大過

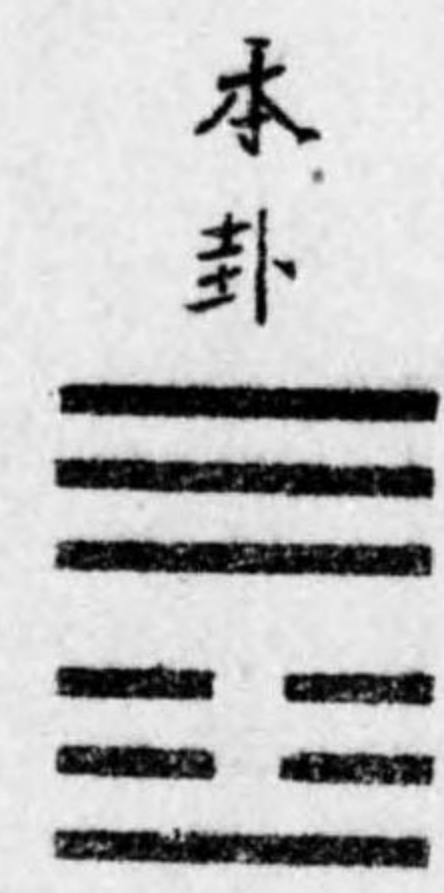
兌 巽

某氏来りて縁談の吉凶を占はんことを求む。筮して困の大過に之くを得たり。断じて曰く、困は兌澤の水下に漏れ出でて澤中水なきの象、水なければ潤ひを失して困窮せざるを得ず。且つ兌の女は上に背き坎の男は下に困むの卦なり。而して変卦大過は二陰四陽にして其釣合みを缺き、又兩巽相従ひ（正倒）兩兌相背くの象なるは、身は従ひども情は背くの意あり。本来困の卦は、節操節儉の意を

有する卦たる水澤節二二二の上下顛倒し破壊して成れる卦なれば、若し此縁談の女を娶るときは、家事の取り締り其他経済上の觀念薄きために困窮し、精神的に和するところなく、円満なる偕老の契りを見ること難からんと。

### 病症の占

乾 震



本卦 天雷无妄

之卦



雷水解

震 坎

或る青年来り、病氣の爲め心憂に堪へず、醫師の診断を求むる前に先生の占を乞ひたしと。之を筮して无妄の解に之くを得たり。

断じて曰く、无妄は乾を天とし震を浮雲となし躁動となし、妄動して災に遇ふの意あり。思ふに貴下は、病といふべき程の事もなきに自ら重大なる病氣に罹れりと妄想して悩みつゝあるものにして強ひて病名を云へば神経衰弱の氣味なるべし。されば醫藥を用ふる必要もなく、出来得る限り世事を放棄して精神を快活に持ち、暫らく自適の生活を送らるべし。然らば夬卦解は震雷上り奮ひ坎雨は降りて萬物皆その難みを解くの卦なれば、貴下の鬱氣は忽ち解消して心身健康となり、喜びを見るに至るべしと。此の人大いに領づくところありて歸りしが、数ヶ月後潑刺たる健康に復し、快活に業務に復し得るに至れり。

### 相場賣買方針の占

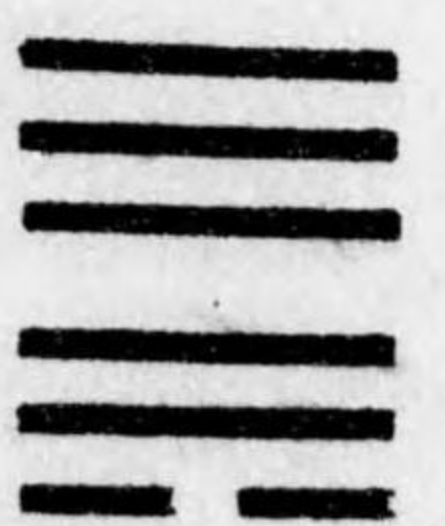
離 坎



火水未濟

之卦

乾 巽



天風姤

或る人まり、今回債券にも勸業債券に当籤して割増金を得たるを以て之を資金に株式市場へ出動を試みんとす、將來の方針に就きて占断を求むと。之を筮して未済の始に之くを得たり。断じて曰く、未済は離火坎水未だ相交はらずして其用を成さざること恰かも離の曙光が坎の海に浮ぶと雖も幽かにして分明ならざるが如し。且つ陰陽両爻互に交錯して現はるゝは、目下相場一高一低にして所謂保合

を續けつゝあるものと見るべし。而して此保合相場が高低いつれへ放るべきかといふに、變卦始は一陰始めて下に生じ、漸次陽爻を蚕食して遯となり否となるの象なれば、大勢は將來下落の方向に向ふべしと云ふ。然れども其人素人なる為か賣出動を好まず。余の占に反して買方針を取りたる為、旬日後の暴落に忽ち大損を食ひ元の本阿彌になりたりとて苦笑しながら語れり。



願望成否の占

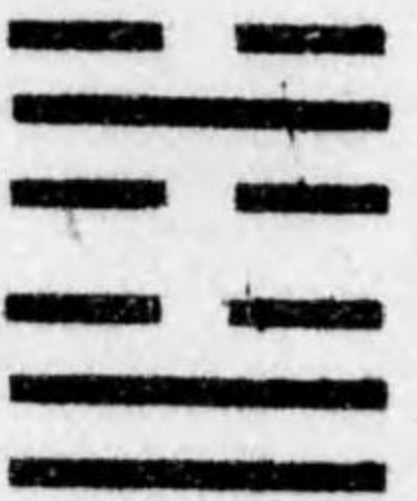
兑 兑



兑為澤

之卦

坎 兑



水澤節

或る人願望の成否に就きて占断を求む。之を筮して兑の節に之くを得たり。断じて曰く。兑は口にして、重兑は象口喧しき意なり。されば折角の願望も口舌の禍より調ふに至らず、我より求むれども彼は背いて肯はぬことあるべし。之外兑が内兑に背くの象より云ふ。故に此願望は口舌のことをよく／＼慎しまるべし。やすれば、外兑は坎水と変じ、坎水兑澤の中に在りて、その限量に應じて過不足な

き節の象となり、身分相應のことなれば必ず調ふに至るべしと云ふ。客如何にも思ひ當ること多しとて首肯しつゝ、歸れり。

訴訟勝敗の占

兑 乾



澤天夬

之卦

艮 兑



山澤損

某氏来りて、目下訴訟中の事件あり。當方に十分に正當なる理由あれば、勝訴となる見込なれども、先方の出様華々しき為か何となく不安に堪へず、如何なる結果になるべきか占を乞ふと。之を筮して夬の損に之くを得たり。断じて曰く、夬は五剛を以て一柔を去り

盡さんとし、その勢甚だ盛大にして蛟龍の昇天するが如し、陽を我とし陰を彼とすれば、此訴訟事件は貴下の方に十分の勝味あるに疑ひなし。たゞ變卦損は乾の陽剛を以て坤の陰柔を包むを以て外見は如何にも強さうに見ゆれど、内実は空虚にして些の勢力あるにあらず。然れども、損の卦は泰の内卦の九三の一陽を損して上六に益したるものにして、我を損して彼を益すの象なり。故に若し先方より折れて妥協を申込み来らば、それを容れて円満に解決する方結局將來の爲に有利なるべしと。後果して占の如く先方より妥協し来り、氣持よき解決を見たり。

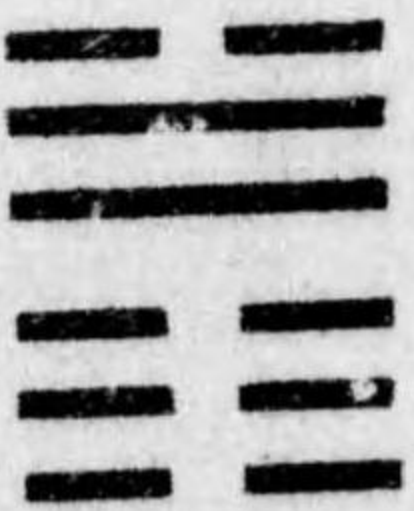
### 轉居吉凶の占

巽 離



風火家人 之卦

兑 坤



澤地萃

某氏来りて、今回恰好なる家を探し當てたるを以て轉居せんとす。吉凶の占断を乞ふと。之を筮して家人の萃に之くを得たり。断じて曰く、家人は家を持つ意あり且つ内は離明にして外は巽順、内明かにして外順なれば上下親和してその家よく齊ふ。故にこの轉居は大吉にして故障災害等を招くことなく且つ變卦萃は兑沢坤地の上、在りて水之に萃まるの象あるを以て、轉居後人氣加はり財集まりて

繁栄隆昌を得べしと。果して此人轉居後大いに家運の隆昌を見たり。

身の上の占

兌 震



澤雷隨

之卦



艮 坎

山水蒙

某氏の身の上を占して隨の蒙に之くを得たり。断じて曰く、隨は正善なるものに隨從して吉兆を得る卦なるが、今変卦蒙となるは、坎は下に深く艮山は上に聳えて東西をも辨ひがたきの象にして、貴下が私情に溺れて公誼を忘れ、小利に迷ひて大利を失ひ、正善に従はずして邪惡に従ひ、鳥に災厄不利に陥る象なれば、宜しく心を公

明正大に保ち、遠大の志望を以て進み、災厄不利を免れて吉祥福利を得る心掛け肝要なり。此心掛けあれば隨は震雷兌沢の中にあるの卦なれば、恰かも蛟龍の淵に潜むが如く、時到れば大いに飛躍發展することあるなり。

縁談の占

兌 離



澤火革

之卦




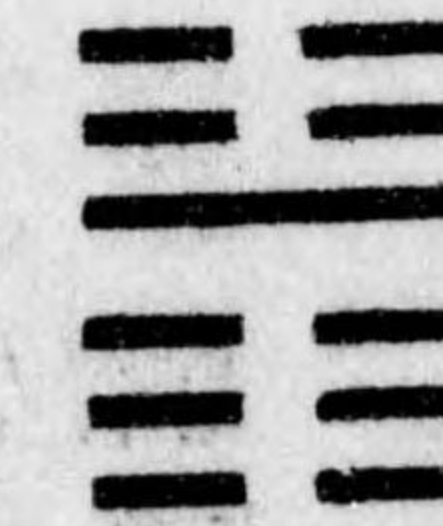
坎 離

水火既濟

某氏來りて其の友人の爲に嫁を媒妁せんとす、吉凶の占を乞ふと、之を筮して革の既濟に之くを得たり。断じて曰く、革は離を夏とし

兌を秋とし、夏より秋に華まり更るの象にして改革の義、又既濟は大事既に終り、物事既に盡くるの象なれば、此婚姻は調ひ難き意あり。且つ外卦の兌口は相背の象にして之が坎水と變ずれば、内卦の離火と尅す。内卦を我とし外卦を彼とすれば、これ即ち彼より我を尅するなり。之を以て觀るに此婚姻は女の方より約を背くの象あれば凶なりと云ふ。

縁談の占

本卦  震 艮  
 之卦  震 坤  
 雷山小過 之卦 雷地豫

某氏来りて、或る所より養子に望まれたるが、往きて吉なるか凶なるか占を乞ふと。之を筮して小過の豫に之くを得たり。断じて曰く、小過は正震倒震（倒震とは下卦艮を指す。）相背き離るゝの象、また艮を門とし震を兵とし、門前兵有るの象にして、進むに宜しからず退くに宜しきの意、進んで出づるときは門前に兵有りて災を受くるが故に退き守るときは虎口を免るべし。變卦豫は震雷坤地の

上を行くの卦にして進行の意あれども、俱に和するの象なし。故に此縁談は凶なりと云ふ。然れども此人余の占断を守らず、強いて行かしが数ヶ月にして離縁となれり。

運勢の占

本卦



水天需

之卦



地風升

坎 乾

坤 巽

ある人の運勢を占ひて需の卦に之を得たり。断じて曰く需の卦は乾の鋭進が坎の險難に阻まれて直ちに進むこと能はざるの象にして、恰かも雪中の梅花開くとすれども、寒のために枝に開き得ざるが如

きである。また乾の大志を懐いて坎險の中に時を待つ之意とも見らるゝなり。而して変卦升は巽風坤の地下に在るの象なるが、風は地中に在るべきものにあらずれば、他日必ず發出して地上に昇り出づるものなり。これを以て觀るに貴下は目下のところは時を得ざる爲に榮達遲きが如けれど、他日必ず時至りて運勢頓調に轉じ、春風に梅花の開くが如きことあるべし。故に忍耐よく目下の境遇に最善を盡すこと肝要なり。

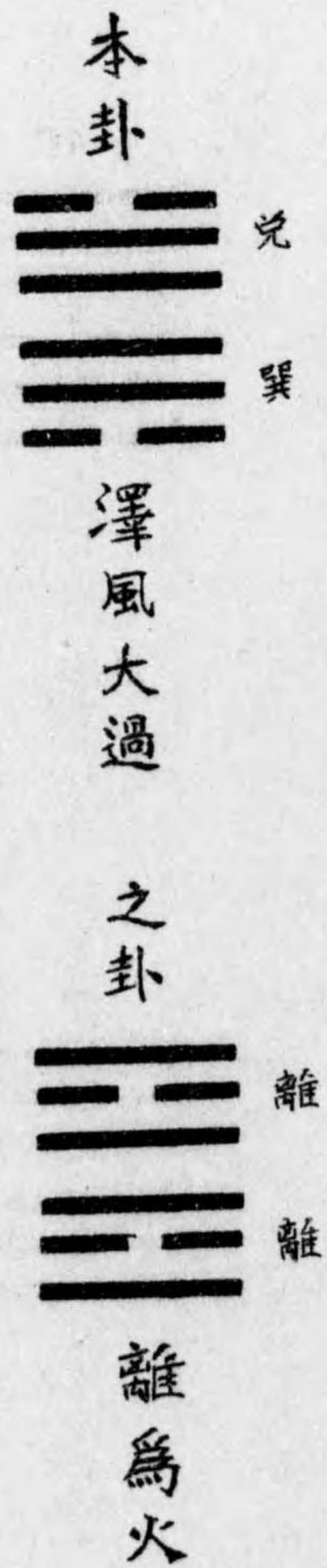
開業の占



某氏来りて、カフエーを開業せんとすれど吉凶果して如何なるべしか占を乞ふと。筮して師の謙に之くを得たり。断じて曰く、師は坤の帷幄の裡に坎の謀計を藏するの象、又一陽を以て五陰を統ぶるは、宰臣よく事に幹たるの象なり。されば、貴下が種々と畫策するところありてカフエーを開業し衆陰即ち多くの女給をよく統制して生業の根本を確立せらるるは誠に結構のことと云ふべし。然れども

変卦謙となれば、艮山坤地の下に入り、一陽艮止の極に止まって動かざるは、営業上の方策が時勢に應ぜざる爲に不振停滞を来すの意あるを以て、此点に意を用ふれば隆昌に赴くこと疑ひなかるべし。

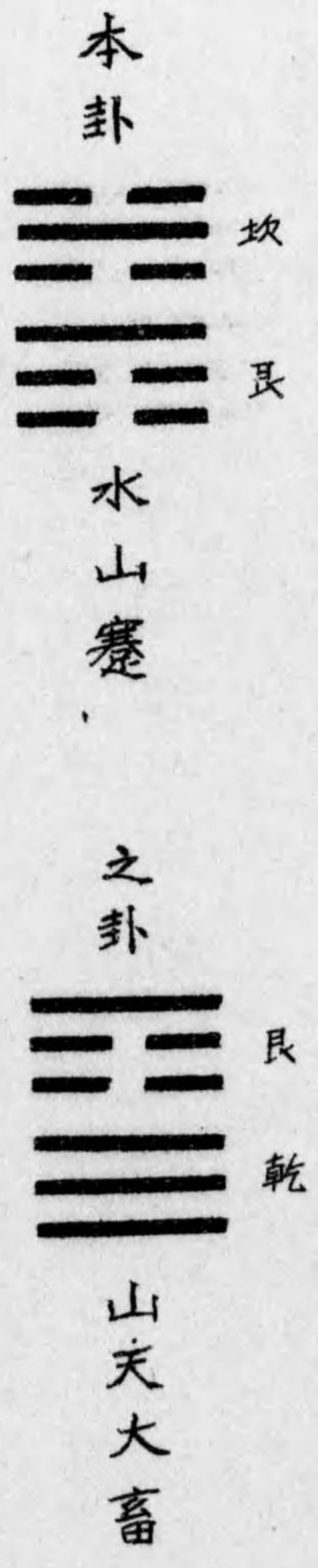
就職の占



某青年来り、就職の口意外に長びき心痛に堪へず、成否の占を乞ふと。之を筮して大過の離に之くを得たり。断じて曰く、大過は上下の二陰力弱くして中の四陽剛を支ふべき力なきの卦にして、事が

力量に過ぎて勝へ難き意なり。又離は離日重なりて遷延するの義あり。之を以て見るに、貴下の望める職は分不相應なるため徒らに時日を経過するのみにて、纏まらざるが如し。今少しく方面を変へておのれの力量相應と思はる職に向ひて運動せらるゝ方得業ならん。この人稍考ふるところありしが、やかて大いに領き、先生の言にて思ひ当ることあり。今日より方針を変へて運動すべしとて帰ルるか、後果して容易に就職確定したり。

轉業の占



或る人来りて轉業の可否を占はんことを乞ふ。筮して蹇の大畜に之くを得たり。断じて曰く、蹇は坎險を前にし艮山を後に控へ、その中間に居て身体自由ならざるの象、故にこれを押切つて進めば益益險難に陥り、又進むことの危険を知りてその本位に止まらば吉ならずと雖も無事なるを得べしとの意なり。而して変卦大畜も亦艮止を以て乾の銳進を制止するの象にして、静かに時の至るを俟ちて志

を達するの意なり。これらの運氣に逆らひ、強ひて轉業せば、失敗困難に陥りて深泥中に足を踏み入りたるが如くなるべしと。然るに此人現在の業務の不振なるに煩悶の餘り、此言を用ゐずして轉業したる爲、救ふべからざる失敗を見るに至れり。

養子の占

坎 乾



水天需の不變

事業に失敗して産を傾けたる人末り、資産家より婿を世話せんと媒介する人あり、その成否を問ふと。之を筮して需の不變を得たり。

断じて曰く、需は乾の銳進を以て坎の險難に遇うて直ちに進むこと能はず時の至るを得つの象なり。故に此縁談今急に調はざるも、近く必ず纏まるを以て、乾剛を以て坎險に堪ゆるの心掛けを持ち、我より進んで話を急進せしめんとするが如きは禁物なり。又、乾を金とし坎を中男となすより見て、此縁談纏まれば貴下の財政状態に援助の手の及ぶことも亦明かなるべし。此人焦躁らずに待ちし爲縁談首尾よく纏まり、且つ漸次産を恢復するを得たり。



運勢の占

艮 坎



山水蒙

之卦

坤 坎



地水師

或る人の運勢を占して蒙の師に之くを得たり。断じて曰く、蒙は艮を山とし雲霧とし、坎を不明なりとし、艮の山の腰より雲霧を生じて全山を覆ひ隠して幽暗なるの象、即ち暗昧にして是非黑白を辨じ難きの意なり。又変卦師は坎水坤地の中に埋もれて今現はれざるの象なり。之を以て見るに、貴下現在の境遇をよく認識せざるが爲に徒らに迷ひを生じ蒙昧の歧路に踏み入らんとするの傾向あり。た

とへ目下の境遇に不満ありとも、それに駆られて妄動することなく、謙讓貞節の心掛にて進めば、坎の夜半は何時しか艮の夜明け方と移り、おのづから榮達繁昌の時至るべきは明かなり。

試験の占

乾 兑



天沢履

之卦

兑 震



澤雷隨

或る人末り、本年は多年の宿望たる高等試験を受けんとす、その成否を問ふと、之を筮して履の隨に之くを得たり、断じて曰く、履は一陰五陽の間に介在して寡少の意、又兑の至弱を以て乾の至剛に

壓せられ方を出し得ざるの意、而して変卦隨は震雷兌沢の中に潜むの象にして、屈伏して時を俟つの意なり。之を以て觀るに貴下合格の素質天分あるも、未だ充分に準備の整ひ居らざることを示す。宜しく今暫らく實力を養成し然る後に受験せらるべし。而して目的を達せらる、時期は、震を出動の期と見て三の爻即ち再來年なるべしと。此人其年は経験の爲めなればとて受験せしむ合格せず、占の如く翌々年に始めて目的を達したり。

天候の占

離 坎



火水未濟

之卦



火天大有

離 乾

某氏来りて、某月某日自分幹事となり小團體を作りて上越地方へ一泊旅行を試みんとす。同日の天候の快否を問ふと、之を筮して未濟の大有に之くを得たり。断じて曰く、未濟は離火坎水相對すといへども、未だ相交はずして烹飪たぎの用を成さず即ち事の未だ濟そのはぬ意あり。而して陰陽互に相交錯して同數なるより見て、天候は晴雨いづれとも判わかち難く見ゆることを示す。然れども變卦大有となれば、

離日乾天の上に輝くの象なるを以て快晴を見るに至るべし。

### 旅行の占

巽 坎



風水渙

之卦

巽 兑



風沢中孚

某氏来り、今回約二年間の豫定を以て海外視察の旅行に出でんとす。その吉凶の占を乞ふと。之を筮して渙の中孚に之くを得たり。断じて曰く、渙は巽風散じて氷解け水流るゝの象にして、又巽の舟坎水の上を渡りて遠行するの意なれば、海外へ旅行せらるゝこと差支へなかるべし。たゞ変卦中孚は巽を倒兌とし彼の口とし、兌を我

の口とし両兌相向ふの象なれば、口舌の事より思はざる禍を惹起すこと。又兌を少女となすより見て婦人のために失敗することあるべければ、總じて貞しき道を守り心に隙を生ぜざる覚悟必要なり。然らば、中孚は至信にして求むれば物の我に應ずるの意あるが故に無事なることを得べし。

### 旅行の占

坎 乾



水天需

之卦

坤 乾



地天泰

某氏来りて、商用の爲航空機の便を藉りて京城まで旅行せんとす。

吉凶の占を乞ふと、之を筮して需の泰に之くを得たり。断じて曰く、需は乾を天空となし銳進となし、坎を險難となし、天空を銳進するの前途に坎險横たはるの象なり。然れども乾剛を以て坎險に堪へ之に陥らざるの意あり。之を以て見るに此險難は一時的のものにして、氣流の惡き場所を通過する際の動搖等に過ぎず、心配するほどのものにはあらず。如何となれば、坎中の一陽剛は変じて陰となり、乾天の上に坤の平安を配して泰となるより見て無事安着は疑ひなきを以てなり。

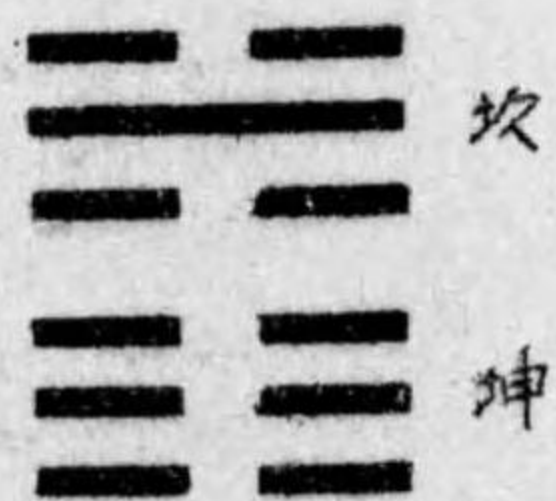
性格の占

本卦



坤為地

之卦



水地比

或る人來り、使用上に手心あれば、今回新に雇入れしものの性格を知りたしといふ。之を筮して坤の比に之くを得たり。断じて曰く、坤は地なり、地の徳廣厚にして物を含蓄し、山川草木等を載せて飽くことなし。即ち温厚順直にして廣量の意あり。又比は坎水坤土の上になりて、水はよく土に和し土はよく水に親しみ、親睦和合の意あり。これを以て見るに此人物は雇人として申分なきが如し。たゞ

本卦變卦共に陰爻多きは、此人物の性格の積極的にあらざることを示すを以て、其の辺を考慮の上適所に用ふれば、よく全能力を出さしむることを得べしと。

願望の占

巽 乾



本卦 風天小畜

之卦



乾 坤

天地否

某氏来りて、今回資本を工面して株式市場に出動し、大いに儲くるところありんとす。吉凶の占を乞ふと。筮して小畜の否に之くを得たり。断じて曰く、小畜は巽の從順を以て乾の銳進を止むるの

卦にして、畜止、畜養の義なり。又小畜は畜ふること少きを意味す。之を以て觀るに、未だ資力少くして出動の好機に達し居らず、故に更に資力を豊富にして餘力あるに至るまで待機するを以て上策とす。若し強ひて出動するときは、乾の進むを適當に制御する能はず、一氣に進んで大往き小来つて否となり、富貴の卦なる泰と全く反對の結果を見るに至るべしと。然れども此人余の言を用ひずして出動し、爲に折角苦心して作りたる資本を一挙に失ふに至れり。

### 願望の占

兌 震



本卦 澤雷隨

之卦

巽 震



風雷益

ある人來り、願望の成否につきて占断を求む。之を筮して隨の益に之くを得たり。断じて曰く、隨の卦は兌を鹿とし震を馬に乗るとし、馬に乗って鹿を逐ひ求むるの象なり。而して兌口我に背くを以て、我は慕へども彼は之を肯はざるの意あり。然れども隨の卦は震雷兌沢の中に震ひ、雷震ひ動けば沢中の水も亦従って動くの卦たるを以て、始めは彼我に兌口を背けて従はざれども、これに屈するこ

となく熱意を傾けて求むれば、彼は遂に外顧して巽となり肯ふに至るべし。

### 金談の占

長 巽



本卦 山風蠱

之卦

長 坤



山地剝

某氏來り、金談の成否を占はんことを乞ふ。之を筮して蠱の剝に之くを得たり。断じて曰く、蠱は巽の風が長の下に入るの象なるが、風山下に入るときは必ず吹き上って山の草木を壞るに至る。且つ巽風吹かんとすれども長止に遭ひて停滯するの意あり。而して變

卦剝を見るに、一陽高く卦極に位するは、望むことの餘りに高くしておのれの分に副はざるの意あり、之を以て觀るに、貴下の望まるる金額は多きに失する爲、先方をして躊躇せしむるの嫌ひあり、結局此金談は調はざるべしと、後果して破談となれり。

### 病氣の占

坤 震



本卦 地雷復の不變

某氏来りて、その息久しく医療に親しむと雖も效驗披々しからず、

果して快癒するや否や占を乞ふと。之を筮して復の不變を得たり。断じて曰く、復は震雷か坤地の中に在るの象なれども、雷はもと地中に久しく在るべきものにあらず、後必ず激發して天に復るものなり。且つ純陰の時一陽下に生じ次第に地上に進み出でんとする象にして、之を滅盡の卦たる山地剝<sub>三三三</sub>に比すれば正に正反對にして、改過遷善の象なり。之を以て觀るに、貴息の病氣は漸く快癒の端緒に達したるものと云ふべく、これより日を追うて快復に向ふこと疑ひなければ、力を落さず養生專一を心掛くること肝要なりと。後果して快癒して以前に倍する健康を獲得したり。

健康の占

艮 震



本卦 山雷頤

之卦



山火賁

艮 離

友人某氏来り、健康上今後の方針につきて占を乞ふと。之を筮して頤の賁に之くを得たり。断じて曰く、頤は二陽を以て四陰を包み艮の上腮は上に着きて止まり震の下腮は下に動いて恰かも頤口の如き重象にして養ふの意あり。又之卦賁は頤の第三爻が陽変して頤中に物を含むが如き意あり。之を以て觀るに賁下の健康上最も注意すべきは飲食を節して身を養ひ言語を慎んで身を保つ心の

掛けなり。且つ二陽を以て四陰を包み（本卦）賁の裏面に困を伏するより見て、外觀は頑丈なるが如く見ゆれども内に弱き所ある体格なるが故に、總じて過度に亘らざるを保健の第一と心掛くべし。

人を援助するの占

坤 乾



本卦 地天泰

之卦



山澤損

艮 兌

某氏来りて、かねて恩顧を受けし人目下事業上の失敗より危急に頻せるを以て微力ながら之を援助せんとす。果して挽回の望みありや否や占を乞ふと。之を筮して泰の損に之くを得たり。断じて曰く、



泰は乾の天氣は下り坤の地氣は上つて陰陽相交和するの象にして、  
 貴下が恩顧ある人を救はんとする義を現はし、之卦損は、泰の九三  
 の一陽を損して上六に益し、我を損して彼を益するの象、且つ艮は  
 貴うして上にあり兑は賤うして下に在り、貴賤位を正しうするの象  
 なれば、いづれに往くも通ぜずといふことなく、加ふるに泰は小往  
 き大来り、事の成就し蕃昌する意を含まを以て、貴下の援助は必ず  
 效を奏するに至るべしといふ。

運勢の占

乾 巽



天風姤

之卦

巽 艮



風山漸

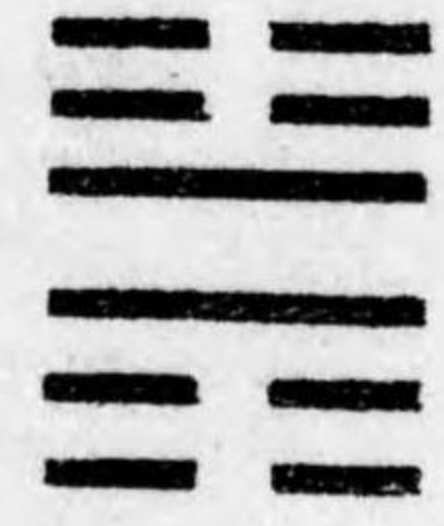
或る人の運勢を筮して始の漸に之くを得たり。断じて曰く、姤は、  
 始<sup>あ</sup>ひ遇ふの卦にして、純陽のとき一陰忽焉として下に生じ陰毒邪美  
 を以て上を害せんとするの象なり。これを以て見るに、曩に好調を  
 續けたる運勢が忽然變じて衰調に向ひたることを示す。然れども其  
 禍に遇ひて周章の餘り急速に之を處理せんとせば、之卦漸となるよ  
 り見て却つて事を破るを以て、艮の篤實に配するに巽従の徳を以て

し、懈怠なく勉強すれば衰運を挽回するを得べし。此人これを守りて災難に屈せず、着実に歩を進めたる為幸運を得るに至れり。

### 賣買の占


震 艮

本卦



雷山小過 之卦

巽 坤



風地觀


或る人賣買上の豫想外れて損失を拓ぎ居れるが、今後如何なる処置を執るべきか占を乞ふと。之を筮して小過の觀に之くを得たり。断じて曰く、小過は一は止まり一は動きたるため、進み過ぎて調和を失ひて不都合を生じたる意なり。即ち賣下が勢ひに任せて進み過

ぎたる為失敗を招きたることを示す。而して之卦觀は巽風坤地の上を吹き行くの象にして、風が地上を行くときは庶物に触れ障るが故に、それを見て風あることを知る。即ち觀は、時を視變を窺ふ意の卦なり。されば此際急進せず經濟界の形勢を觀望しつゝ、巽風坤地を吹き行くが如き態度を以て、進まば利を見るに至るべしと。

### 相場場の占


坤 兌

本卦



地澤臨 之卦

坎 坎



坎為水

某氏末り、株式市場に出動し目下のところは少しく利益勘定にな

り居れど、この相場上向きならば更に利乗せを行って利益を増さんとす、先行き果して何れなるや占を乞ふと、之を筮して臨の坎に之くを得たり。断じて曰く、臨は二陽次第に勢を得て上進するの象なるが故に、先行きは高しと見るを得べし。然れども之卦坎となるより断ずれば、此相場は伸び切らずして途中より挫折するの嫌ひあり。今のところ僅か二陽爻にして利益必けれども、此際速かに手仕舞うて退き、形勢観望の後再び出動するを以て堅実なる方策となす。若し強ひて此儘押し行かば忽ち一陽二陰の間に陥りて出づること能はざる如く、回復すべからざる損失を蒙るに至るべし。此人占を守りて手早く利啖を行って一時退きたる爲、其直後の急変に巻込まるゝを免れ得たり。

縁談の占

離 坎



本卦 火水未濟 之卦



乾 巽 天風始

縁談の吉凶を占ひて火水未濟の姤に之くを得たり。断じて曰く、未濟は坎の中男に離の中女を配するを以て吉卦なるが如く見ゆれど、元未離火坎水未だ交はらざるの象にして、相交はらざればその用を濟さず、且つ水火相剋するの義もありて吉ならず、而して之卦天風姤は一陰五陽に遇ふの象にして、一人の婦人を以て多くの男性に見ゆるの意あるが故に、婚姻の卦としては凶なるを免れず。

### 走人の占

艮 兌



山澤損

之卦

巽 艮



風山漸

某氏来りて、その長男家出して久しく歸らず、心痛なれば占を乞ふと。之を筮して損の漸に之くを得たり。断じて曰く、損は兌を少女となし、艮を少男となし、東北となし止まるとなす。之に依て見るに、貴息は東北地方の山を控へたる所の女の家に止まれるが如し。而して艮兌相向ひて兌悦の象あるは、兩人の仲密にして相愛し居るを示す。その方面に心當りは無きやと云へば某氏思ひ當ることあり

と云ふ。然らば追手を差向けらる、もよけれど、事を急にして先方を驚かせば思はざる不幸を惹起するやも計られず。之卦漸となるより見て、漸を以て穩やかに話し、成るべく理解ある解決をなすやう取計らはるべしと。

### 鑛山の占

艮 坎



山水蒙

之卦

艮 乾



山天大畜

某氏来り、今圃或る人より産金鉉山を譲り受けたるが、將來有望なりや否や占を乞ふと。之を筮して蒙の大畜に之くを得たり。断じ

て曰く、蒙は坎溪下に深く、艮山上に聳えて東西も辨じ難きの象にして讓受けたる鑛山の嶮岨なるを示せり。而して前の所有者は、経営の坎險を撃破し得ずして艮止のやむなきに至れるなるべし。されば、貴下も経営の初めは必ず、坎難に遭遇すべく而も之に屈するこ  
 となく、飽くまで貫徹の精神を以て進まば、之卦大畜は艮山の中に  
 乾の金を大に畜聚するの象なるを以て、隆昌盛大に赴くべきこと明か  
 なりと。後果して経営困難に陥り、殆んど投げ出さんとせしが不撓  
 の努力を以て遂に成功を見るに至れり。

身の上の占

震 乾



雷天大壯 之卦

艮 離



山火賁

某実業家来り、身の上の占断を求む。之を筮して大壯の賁に之く  
 を得たり。断じて曰く、大壯は震雷乾天の上に震ひ鳴り、且つ四陽  
 長じ進むの象にして、その勢ひ甚だ壯盛當るべからざる如き意あり。  
 これを以て見るに、貴下の目下の境遇は家富み財盈ちて大いに蕃昌  
 し何不足なきが如くなれども、乾の鋭進に加ふるに震の疾行を以て  
 し、進むのみにして止むるものなきは、必ず進み過ぎて失敗を見る

虞れあり。之卦貞は離火を艮山の下に揚ぐるの象にして、その火は僅かに山の諸物の相を明らかにするのみにして、光遠くに及ばず、これ責下が現在の壯盛なる境遇にのみ心を奪はれ遠き慮りなきの嫌ひあることを示すものなり。されば進むことのみを計らず、退いて守ることをも今のうちに考へ置かる、方得策なりと云ふ。その人此言をよく守りそれ〴〵將來の備へを固めたる爲、其後に末れる財界の恐慌にも打撃を受くることを免れたり。

出資の占

坤 離



本卦 地火明夷 之卦



巽 巽 巽為風

某氏来り、或る事業に出資せんことを勧誘せられつゝあり、その吉凶を占はれたしと。之を筮して明夷の巽に之くを得たり。断じて曰く、明夷は坤陰離明を掩ふの象にして晦まし欺くの意あれば、此事業は單に人を欺いて資金を集めんがために目論見たるものなるべし。且つ之卦巽は風に風を重ねるの象、また巽を疑惑となすより見て、この事業の空漠にして実質なきものなること明らかなり。宜し

く誘惑に乗ること勿れと。後果して大詎欺師團なること新聞紙上に報せられたり。

志望の占

震 離



本卦 雷火豊

之卦



坤 震

地雷復

或る人志望の成否を占はんことを乞ふ。筮して豊の復に之くを得たり。断じて曰く、豊は離を明智とし震を勉強とし、明智ありて勉強するの意なるより見て、必ず志望を達せらるべし。但し之卦復と互れば、震の勉強は坤暗の下に隠れて怠るの意あれば、此点を注

意せらるゝこと肝要なり。復は又震雷地中に在るの象にして、雷は久しく地中に居るべきものにあらず必ず時を得て天に昇るものなれば、貴下の志望も必ず達するの時あることは明らかなり。

鑿井の占

坤 震



震 震



知事を退きて閑地に就きたる友人某、邸宅を新築して井戸を掘らんとするに際し、その土地頗る高燥なるを以て掘りかけて中途にして失敗せんことを虞れ、豫め定めたる場所が果して適當なりや否や

余に問ふ。余之を筮して復の震に之くを得たり。坤は即ち地にして井戸を掘るべき場所なり。又震は動き進むの卦にして掘鑿を意味すれども、その初爻の陽なるは巨岩大石の横たはりて掘鑿難澁の象なり。而して、之卦震となりて再び陽爻の現はるゝは、掘鑿の鉄棒此處まで通りて、下へは通らざる象なり。故に此の場所を中止し別に筮を立てて他の場所を掘りしに、果して難なく清水滾々と湧き出づる井を得たり。

運氣の占

艮 乾



本卦 山天大畜 之卦

巽 震



風雷益

當年大學を卒業したる息子を持つ親来りて、其子の運氣の吉凶を問ふ。之を筮して大畜の益に之くを得たり。即ち之を吉なりと断す。大畜はたくはふるなり、益は榮ゆるなり、乾は健なり、震は動なり、乾震となる、健にして動くの義なり。艮は篤実なり、巽は遜従なり、艮が巽となるは、篤実にして遜ふの象なり。又大畜は止むるなり、益は恵むなり。大畜の益に之くは、驕を止めて人を恵む



の意あり。故に内剛健にして能く勤め、外は篤実にして能く謙遜の徳あり。之を以て人を恵むときは、必ず栄ゆること疑ひなかるべし。又、大畜は、民を巖となし、乾を金となし、金巖中に在るの象なり。又、大畜は聚なり、蘊なり、養なり。益は増なり。即ち、大畜の益に之くは、財を聚め寶を貯へて、將來益々大を成すの象なり。

### 運勢の占

乾 震



本卦 天雷无妄

之卦

乾 兑



天泽履

某氏来りて運勢の占断を求む。筮して无妄の履に之くを得たり。

断じて曰く、無妄の卦は震雷乾天の下に動くか如く、動くに意なく自然に動くの象なるが故に妄動すれば必ず乾の剛体に支へられて進むこと能はず、災に遇ふの意あり。これを以て見るに、おのれより大なるものに対抗して進むことのみを考ふるときは災に遇ひて物事成就せざるが故に、よろしく乾剛には兑悦を以て従ひ、乾剛先に進み兑柔も亦その後より尾行すれば、之卦は禮の意たる履となり、諸事通ざることなきに至るべし。要するに貴下は乾剛なる敵に向ひて對抗急進の策をとりたる爲め、多少災害を受け居る形なれば、宜しく兑従の策を採りて運勢の好轉を計らるべしと。

新事業の占

震 坤



本卦 雷地豫

之卦

坎 震



水雷屯

某氏来り、新事業の計画に就き吉凶の占を知りたしと。之を筮して豫の屯に之くを得たり。断じて曰く、この事業はその計画目論見を見れば、恰かも震雷が坤地の上に奮ひ出づるが如く、甚だ景氣よく思はるれど、実は雨を伴はざる空雷の如く、聞えて後は跡方もなく消亡するの象あり。如何となれば之卦屯となれば、震雷坎險の中に陥り、動けどもその險難を脱出し得ざるが故なり。要するに此計画は、

豫の卦が五陰の中に僅かに一陽を挟むより見るも、実質の伴はざるものにして、計画倒れとなるの嫌ひあれば、宜しく見合はしたる方吉なるべしと云ふ。此人予の言を用ひて事業を見合はせたる為損失を免れたる由後日來訪の節語られたり。

教育法の占

離 乾



本卦 火天大有 之卦

兑 艮



澤山咸

某氏来りて、その子息の教育法につき注意の占を求めらる。之を筮して大有の咸に之くを得たり。断じて曰く、大有は離日乾天の上

に輝くの象にして、之を子息の身の上にとれば、乾の勉強の上に離の明智あり。好学の心甚だ大なるの義あり。然れども、一陰の微力を以て五陽の重任に當るは、学ぶこと多過ぎ、勉強の度を過して身心を傷ふに至るの虞れあり。且つ之卦咸は、咸するの卦にして、物に咸じて心の移り易き義あれば、子息の教育方針も此期に於いて最も注意する必要あり。咸の卦が乾の鋭進を坤安を以て包む如く、勉強学問のみに重きを置くの片寄りたる方針を採らず、特に身体の健康方面に顧慮するやうせらべしと云ふ。

身の上の占

本卦



艮 坎

山水蒙

之卦



坤 坎

地水師

某氏来りて、自分は年中殆ど旅先にて日を暮すものなるが、今後身の危難などにつきて心得となるべき占を乞ふと。之を筮して蒙の師に之くを得たり。断じて曰く、本卦之卦ともに坎水を現はせるは、先づ河川湖沼の類を渉る際水難に遇ふの恐れあれば、此点の心掛け肝要にて、殊に蒙より需、訟を経て師に至るまでの四卦は悉く坎水に體し居るより見て今後の四年間、別して最後の師に相当すべき四

年目には、よく／＼注意せられて、かりそのにも風波の荒き時に河川湖沼を渡りなごする如き無理をせざるやうせらるべしと云へば、先生の言は自分も常に心に懸るところなければ、よく守るべしと云て歸られたり。

事業の占

坎 坤



水地比

震 坤



雷地豫

某氏来りてその経営する事業について占を乞ふ。之を筮して比の豫に之くを得たり。断じて曰く、比は坎水坤土の上に在りて発散亡

失するの象なるより見て、事業に注入する金額のみ目立ちて成績等らざるの嘆あるが如きは、坤安か坎險に押へられて伸び悩むの卦象よりするも明らかなることなり。されば、目下のところはまことに苦しみ状態なれども、やかて坎の悩みは消えて震となれば、震雷坤地を出でて奮ひ動き、平素の志を達するの時至ることを意味す。故に目下のところは堅忍苦闘を以て切り抜くる覚悟肝要なるべし。これを通り越せば、間もなく光明の境地に達せんと。この人大いに勇氣を得たりとて欣然として歸られしが、後果して成功するを得たり。

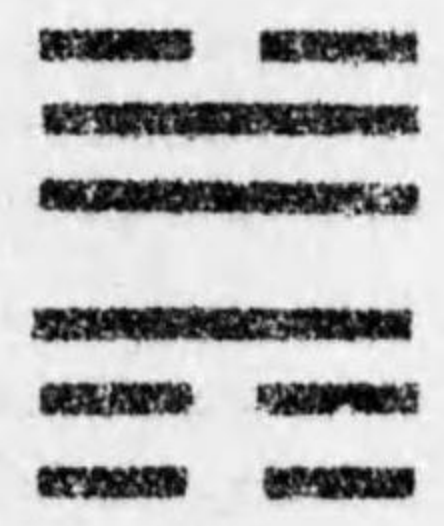
### 縁運の占

乾 離



本卦 天火同人 之卦

兌 艮



澤山咸

發妻を失ひて久しく獨身生活を送り居れる某氏来りて今後の縁運につき占を求む。之を筮して同人の咸に之くを得たり。断じて曰く、本卦之卦共に縁運の卦としては申し分なきものなり。先づ本卦より見れば、同人は離の附麗を以て乾の有力に同じふするの卦にして、人に頼って發達するの意即ち離の聰明なる中女がよく乾の夫に事へて家を齊ふるの意あり。又之卦咸は艮の少男に兌の少女を配し、相

感ずるの意あれば、情意和合したる賢夫人を得らるべしと。果して占断の如く此人間もなく良縁ありて幸福なる家庭を作ることを得たり。

### 身の上の占

艮 巽



本卦 山風蠱 之卦

震 坎



雷水解

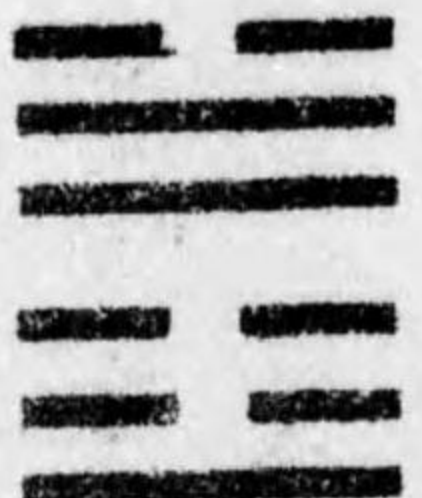
一婦人来りて身の上の占を求む。之を筮して蠱の解に之くを得たり。断じて曰く、蠱は巽の長女艮の少男を追ひて疑ひ迷ふの意なるより見て、貴女は目下自分より年少の男のことにつきて善勞せらる

るならん。而して蠱は巽風艮山の下に入りて草木を壞やぶるの象、又對体の象よりすれば艮は一陽上に在り二陰下に居る、巽は二陽上に在り一陰下に居る、これ上下共に陰陽交はらず、陰陽交はらざれば必ず壞れを生ずるものなり。又之卦解は解散分離の意にして、三四の両爻二五を問して夫婦不和の意あり。以上の如く本卦之卦悉く成立せざるの義を示すを以て、宜しく意を決して一切を清算し、誠実中孚の本道を辿らるゝを吉とす。此婦人幸にして余の言を用ひて翻然心を改め、後境遇に似合へる良縁を得て平安なる家庭の人となれり。

### 目的成否の占

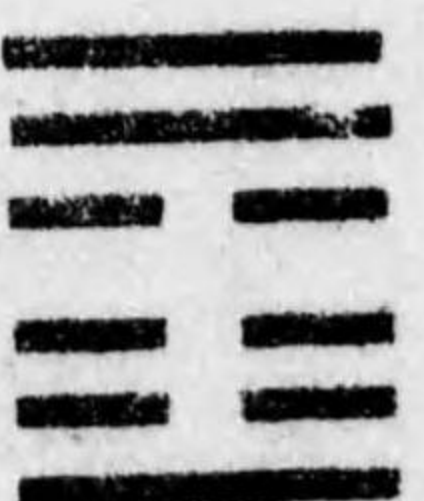
兌 震

本卦



澤雷隨

之卦



風雷益

ある人未り、目的の成否につきて占を求む。之を筮して隨の益に之くを得たり。断じて曰く、隨は震を以て兌を追ひ求むるの象なれども、兌口我に背きて同意成立を見るに至らざるの意あり。然れども隨は又震雷兌澤の中に在りて恰かも龍の淵に潜むが如く、後時を得て大いに發達するの卦なるが故に、貴下若し誠実の心を以て屈することなく目的を貫徹することに邁進せば、はじめは肯せざりし兌

も遂に外顯して巽となり、風雷益となりて増益の境地に到ることを得べしと。

### 冤罪晴否の占

本卦 坎 坎  
 之卦 震 坎  
 坎為水 之卦 雷水解

某氏来りて、身に覚えなきことにて上役より疑ひを受け毎日不愉快の日を送り居るが、此疑ひ果して晴る、時来るべきや否や占を乞ふと、之を筮して坎の解に之くを得たり。断じて曰く、坎は二五の君臣共に陽にして相應せず、險の主となりて兩つながら相難むの象

なり。之を貴下の場合に見れば、先方も亦晴れざるところありて難み居るの象なり。然し貴下にして一點の疚やまなきところなく、險中に在れども孚誠の心を失はざれば、上卦はやがて震と變じ動き、震雷は上り奮ひ坎雨は降って萬物その難みを解くの卦たる解となるを以て、貴下の疑ひは必ず晴る、時あるべし、失望するに及ばずと。後果して占断の如く、先方より釈然たる態度に出でて良結果を見たり。

相談事成否の占

艮 兑



山澤損

之卦

巽 兑



風澤中孚

某氏来りて、或る事につき叔父に相談せんとす、成否の占を乞ふと、之を筮して損の中学に之くを得たり。断じて曰く、損は兑艮互に相向ひ、我の兑口を以て艮を説くの象なるが故に、相談事などは調ふ意あり。然れども、損は元未泰の卦より変じたりと見れば、内卦九三の一陽を損して上六に益したる形跡あり。こは即ち我を損して彼を益するの象なり。されば、この相談事に於いても、我方のみ

の利益を考ふるときは、卦象に背きて良結果を得ること難かるべし。宜しく之卦中学となる如く、至信にして求むれば兑口相向ひて彼我相悦び、相談事忽ち調ふに至るべしと。

身の上の占

離 艮



火山旅

之卦

兑 坎



澤水困

一婦人来りて身の上の占を求む。之を筮して旅の困に之くを得たり。断じて曰く、旅は離の中女が艮の少男の上にあれども、元未此卦は旅行の意の卦にして、とかく離れ易く親しみ寡さ意あり。これ



を以て見るに、貴女の思慕せる男子との間に疎隔を生じ煩悶し居らるゝならん。然らばその疎隔を生じたる原因如何といふに、之卦困は兑を少女とし坎を中男とし、中男少女を追ふの象なるより見て、貴女の思慕せる男子が他の婦人に心を惹かれたる爲めならん。而して困は又兌の少女は上に背き坎の中男は下に苦しむ象なれば、此の婦人との関係は決して円満にあらず却って困しみ居る程なり。故に男子は遠からず彼の婦人を離れて貴女の許に帰り来るべしといふ。

縁運の占

震 兌



本卦 雷澤歸妹

之卦



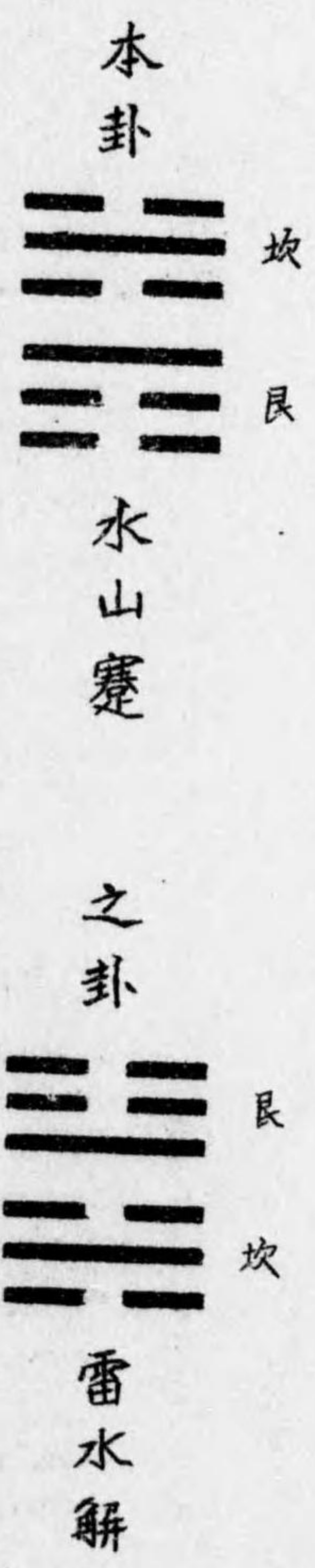
風水渙

巽 坎

或る人未り、その思慕せる婦人を娶りて妻となさんと思へど吉凶如何なるべきか、占を乞ひたしといふ。之を筮して歸妹の渙に之くを得たり。断じて曰く、歸妹は兌の少女が震の長男に下りて悦び動くところの象にして歸嫁する意なれば、この縁運は一見甚だ吉なるが如く見ゆれど、兌の少女悦んで震の長男を動かすは、男動いて女之に隨ふの正道に反し、姪奔不貞の意あるのみならず、三四が二五

夫婦の間を隔て、之卦渙が渙散離散するの意あるより見て、この縁運は將來吉たる能はず、断乎として思ひ切らるゝ方宜しかるべしと云ふ。

### 性格の占



ある婦人まりて、結婚を望まれたる男子の性格を知りたしといふ。之を筮して蹇の解に之くを得たり。断じて曰く、本卦之卦共に坤陰を以て離明を包み、退き守つて自らその明を發揮せざる象なり。之

を人物にとりて見れば、一見したるところは昏愚にして野卑なるが如くなれども、その實は癡明にして文才に富める性格の人たるを示す。而して蹇は艮山を前に坎險を後に控へて難む象なるも、之卦解となるより見て此の難みは解消すべきものなれば、貴女はその男子の外観などに思ひ悩むことなく、結婚せらるゝ方宜しかるべしといふ。後此婦人占断の如く此男子と結婚し幸福なる家庭の人となれり。

代議士立候補吉凶の占

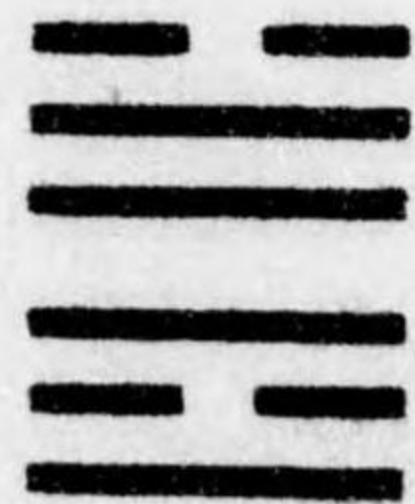
巽 兌



風澤中孚

之卦

兌 離



澤火革

某氏来りて、今圓の國會議員選挙に立候補せんとす、その吉凶如何を問ふと。之を筮して中孚の革に之くを得たり。断じて曰く、中孚は巽風兌沢を吹くの象にして、風水土を吹けば水も亦従つて動くの義なり。又内卦の我より兌の口を以て云ひかくれば、外卦の彼は之を信じて倒兌の口を以て之を肯ふ。これ彼我共に孚信ありて兩兌の口相向ひ合して、その中に自然の中虚の信孚が生じ来れるもの存

り。これを以て觀るに、中孚には我呼むで彼應するの意あるが故に貴下が代議士立候補を宣すれば、必ず多数の應援者を得べく、又之卦革は水火相息の象にして選挙戦の意を表はし、その勝敗に於いては離火兌金を克するより見て我彼に勝つの意あり。されば貴下の選挙出馬は吉にして當選疑ひなかるべしと云ふ。後果して最高点を得て當選せられたり。

誠首有無の占

兌 離



澤火革

之卦



艮 乾

山天大畜

某官廳に奉職する人未りて、近く行政整理の爲、相當多数に亘りて誠首が行はるべき様子なり。自分の地位は如何なるべきか占を乞ふと。之を筮して革の大畜に之くを得たり。断じて曰く、革は離を夏とし兌を秋とし、夏より秋に改まり革まるの象にして、改革変革の義なるは、行政整理ありて人物配置の更改あるべきことを示す。

而して革を三月とし大畜を八月とするより見て、三月若くは八月なるべし。又貴下の地位については、革は離火兌金を克するの象にして、我彼われがに克つの意あり、大畜は艮止を以て乾の銳進を制止するの象にして、止まり居るの意あるより見て誠首を免るべしといふ。後果して三月に行政整理行はれしが、此人は無事なるを得たり。(月数の配當は漢の孟長卿の推卦に據る)

### 不和の因の占

離 震



火雷噬嗑 之卦



巽 兑

風澤中孚

某氏来りて、十数年来懇意にせる友人の態度近頃餘所々々しくして余に對して心中に何か不平あるものの如く見え、甚だ不快に堪えず、果して如何なる原因なりや占を乞ひたしと。之を筮して噬嗑の中孚に之くを得たり。断じて曰く、噬嗑は九四の一陽が中間に介在して初上の仲を隔つるの意あり。即ち貴下と友人との間に邪智に長じたる人間（離の初爻）ありて、故意に交情を阻害せんと謀り居る

が故に、友人は之を過信したる結果貴下に對する態度に釈然たらざるものあるに至れるなり。而して之卦中孚となるより見て、至信を披瀝して友人と談合すれば、正兑彼に親しみ倒兑我に和するの卦象なるが故に、疑念は忽ち晴れて釈然とするに至らんと云ふ。

### 妊娠の占

巽 震



風雷益 之卦




乾 離

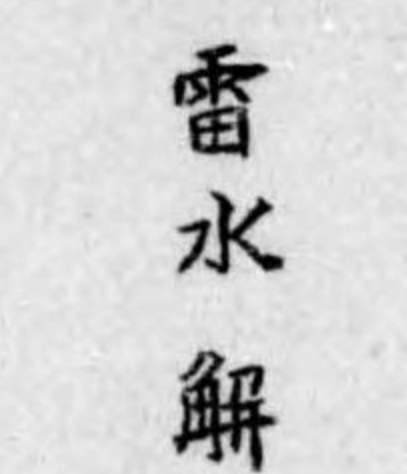
天下同人


或る人来りて、愚妻妊娠の兆あり、その實否並に産鬼の男女別を知りたしと。之を筮して益の同人に之くを得たり。断じて曰く、益

はもと否なりと見れば、外卦の九四を損して内卦の初六に益したる形跡あり。こは即ち上を損して下を益すの象、天施し地生ずるの義あるを以て、姪姪したることは確實なり。而して益は乾を以て坤を包めるを以て女兒を懐胎せりと見るを至當とすべきやう思はるれど、変じて同人となりたるは、筮を乞ふ人即ち生児の父と同じなりとの義なれば生児は男子なりと断するなり。後果して男児を安産せり。

縁運の占

水卦  震 坎

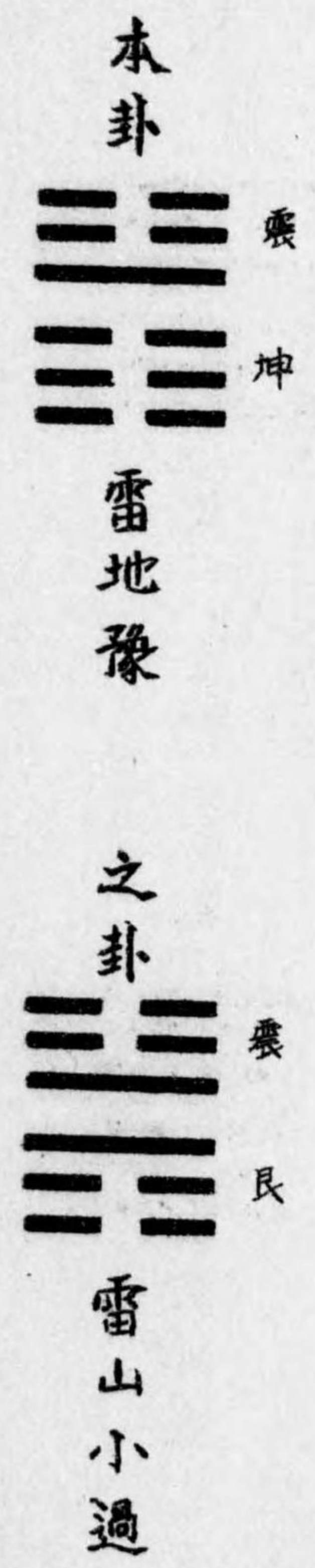
雷水解  之卦

雷地豫  震 坤

一 婦人来り、目下長少二人の男性より結婚を望まれ居れども、そのうち將來を託するに足る人は年長の人なりや將又年少の人なりやその吉凶を占はむことを乞ふ。之を筮して解の豫に之くを得たり。断じて曰く、解は内卦坎を北とし中男とし貧窮とす、又外卦震を東とし長男とし繁昌とす。故に年少の男子は北方に當りて家貧しく年長の男子は東方に當りて家富めるならん云へば、婦人然りといふ。

而して解は解散瓦解の義なるが、之を之卦豫について見るに、解散瓦解して無縁の人となるは故の年少の人にて、震の年長者は依然として変化せざるのみか豫は震雷が坤地の上に奮ひ出づるの象にして、志を達して悦び樂しむの義なれば、貴女の縁は年長者の方にあるべしといふ。

### 養子縁組の占



某青年来り、目下某家より養子に望まれ居れども、此縁果して吉

なりや凶なりや占を乞ふと、之を筮して豫の小過に之くを得たり。断じて曰く、此卦はもと地雷復三三三より来れるものにして、復は一陽の震の男子が生家に在るの象なり。豫は此一陽の男子が出て外卦に位し、生家を出でて他家の養子となる所の象なり。而して豫は悦び樂しむの義なれば、養子となりてその家に行きたる当座は家内和合して豫樂することを得べきも、之卦小過は正震倒震相背き離る、象にして彼我の間調和を缺きて背離するの義なれば、家内不和を生じ離縁となるに至るべし。故に此縁談は不吉なりと。

### 紛紜事の占

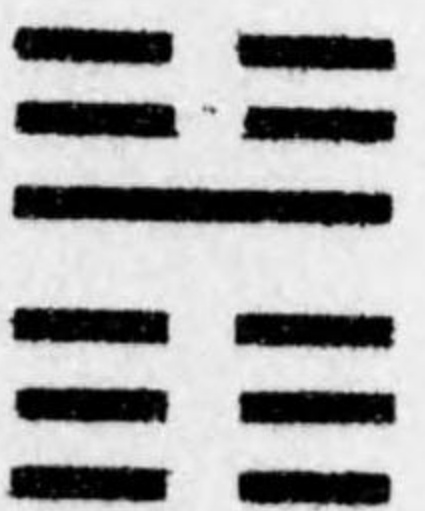
震 艮



本卦 雷山小過

之卦

震 坤



雷地豫

某氏来りて、目下少しく紛紜事起り居れるが、この結果は如何なるべきや占を乞ふと。之を筮して小過の豫に之くを得たり。断じて曰く、小過は震雷が艮山の上に奮ひ出づるの象なるが、山は止まりて動かず雷は動いて止まらず、過不及あるために齟齬する義なり。又正震倒震が互に陽の強爻を向け合うて對立するは、兩者の間に、紛紜事起りて互に相譲らずして睨み合ひ居ることを示す。若し貴下が

將來の大局を考へ、目下の小紛紜に一步を譲りて妥協的態度に出づれば、艮の陽爻は陰と變り、艮山の險は坤地の平安となり、之卦雷地豫となれば、悦び樂しむの象なるが故に、此紛紜は易々と解決を見るに至るべしと。



353  
56

昭和八年十一月十五日印刷  
昭和八年十一月二十七日發行

(非賣品)

編輯兼  
發行人

神山五黃

東京市本郷區駒込動坂町六十三番地

8. 11. 22

印刷所

壹聲社

東京市豊島區西巢鴨一ノ三三五七番地

東京市本郷區駒込動坂町六十三番地

發行所 神山易學會

終